*Knife and Pistol Fighting*

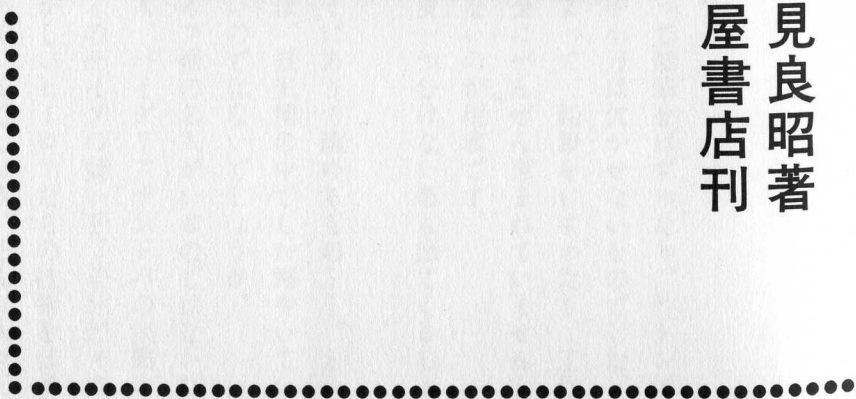
# ナイフ・ピストル
# ファイティング

初見良昭 著

土屋書店

# ナイフファイティングとピストルファイティング

初見良昭著

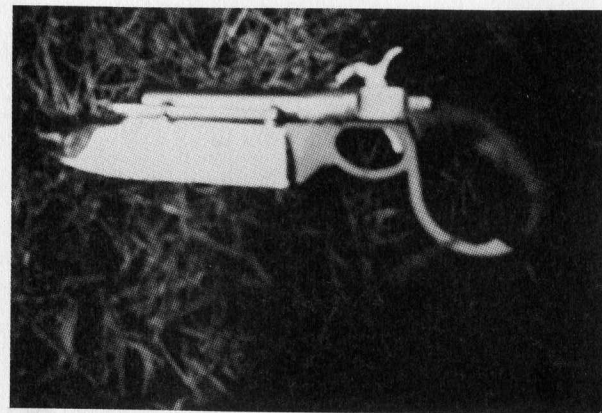
土屋書店刊

# ナイフ術とピストル術

私の少年の頃は、ナイフや小刀を使って鉛筆をけずったり、竹トンボを作ったりと生活や遊びの中でナイフや小刀は欠かせないものでした。近頃の子供達は、機械化された工具によって、鉛筆をけずったり、工作をするものですから、ナイフを使う機会にぜんぜん恵まれていませんし、危険だといわれて、大人になっても、さわらせてもらえないのが現状です。

そのために大人になっても、果物の皮一つむけない者も出てくるしまつです。

現代人は、ナイフは危険なもの、遠くにありて眺めるもの……。ということで「ナイフ術」などというものは、蜃気楼の中でしか輝やいていないのではないかと思っている人が多いのではないでしょうか。

そこで私は、アメリカへ行ったらナイフ術の名人がいるのではないだろうか？　例えば、ボーイナイフの名人、バイダリアサンドバの決闘のヒーロー、ジェムスボーイ、カーボーイのナイフの使い手、インディアン、そして、ターザン……、などなつかしいヒーローたちの技術を伝承している人々、また、近くは海兵隊だっているでしょう。そんな人々と

◀古銃にナイフがついているナイフガン

の未知との遭遇を期待しながら渡米したのですが、外国の人達がいまだに日本人はチョンマゲ姿で生活している者がいると見るように、アメリカでの「ナイフ術」の名人の生存は、昔し語りのようでありました。

ニューヨークからロスアンジェルスへ向かう路々、オハイのジャーマンタウンのマイアミキャンプでは、世界の格闘技のプロフェッショナルが、三百名ほど、私の格闘技のテクネノを待ちうけておりました。

試合の結果、私のマーシャルアーツは、彼等を子供のようにテイチングする結果となりました。彼等は、私に対して、ナイフを教えてくれとせがみました。私は即座に「オーケイ」を出しました。彼等は大変喜びました。

武器の進歩とか、物質文明というものは、人間が生きていくための基本とでもいいましょうか、最も基礎となる母体を殺してしまうものなのです。格闘技、マーシャルアーツの基本というものが、世界的に根本から消えさっておりました。

これは日本の武道にもいえることであります。ここで私が紹介する「ナイフ術・ピストル術」そしてその感覚を生んだものは、私が継承した死生観の中で成長した九百年の兵法の気であり、その生気とは、体術なの





です。

何の武道、格闘技でもそうですが、無刀真剣型体術を母体として生まれたものでなければ要をなしません。九百年の正しい教え、それは、花性和楽、平和に生き、平和を守る正義のために、このナイフ術・ピストル術を、または芸術として正しく修業して下さい。また、アクションの考証としての一助にもなれば幸いです。

昭和五十八年三月十日
高松先生生誕の日

初見良昭

# ナイフ・ピストルファイティング

## 目次

A
B
C
D
E
F







A
B
C
D
E
F

# 第1章 ナイフ術 ピストル術を学びやすくするために

ナイフ術・ピストル術を学びやすくするために、ナイフのポジション、ピストルのポジションをアルファベットで示しました。まずよく、その部位を覚えて下さい。

次に、自分とか、捕手、相手方とか受手という説明も簡略にするために記号を用いました。

N→ナイフ





P→ピストル

I→自分または捕手

Y→相手または受手

$Y_1$→受手が複数の場合の一人

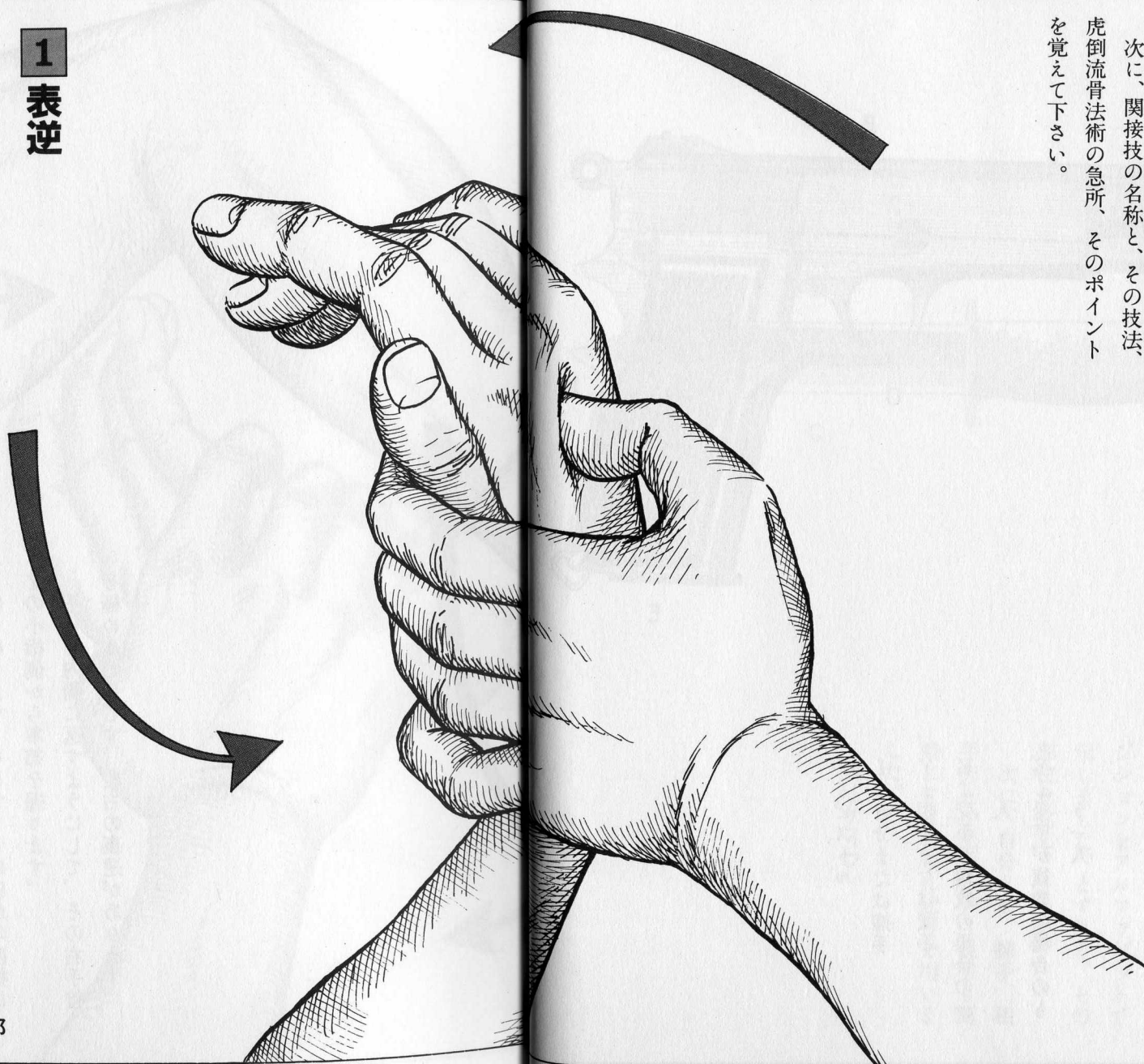
$Y_2$→受手が複数の場合のもう一人

これだけは頭に入れて下さい。実技に入るときに、この記号が大切になります。

## 関節技の名称

次に、関節技の名称と、その技法、虎倒流骨法術の急所、そのポイントを覚えて下さい。

### 1 表逆

IはYの右手甲に、Iの左手拇指を当て、ほかの四指にてYの右手掌側を握り、Yの手を外に返すように捕ります。
左右の表逆があります。

イラスト・小沢謙次郎

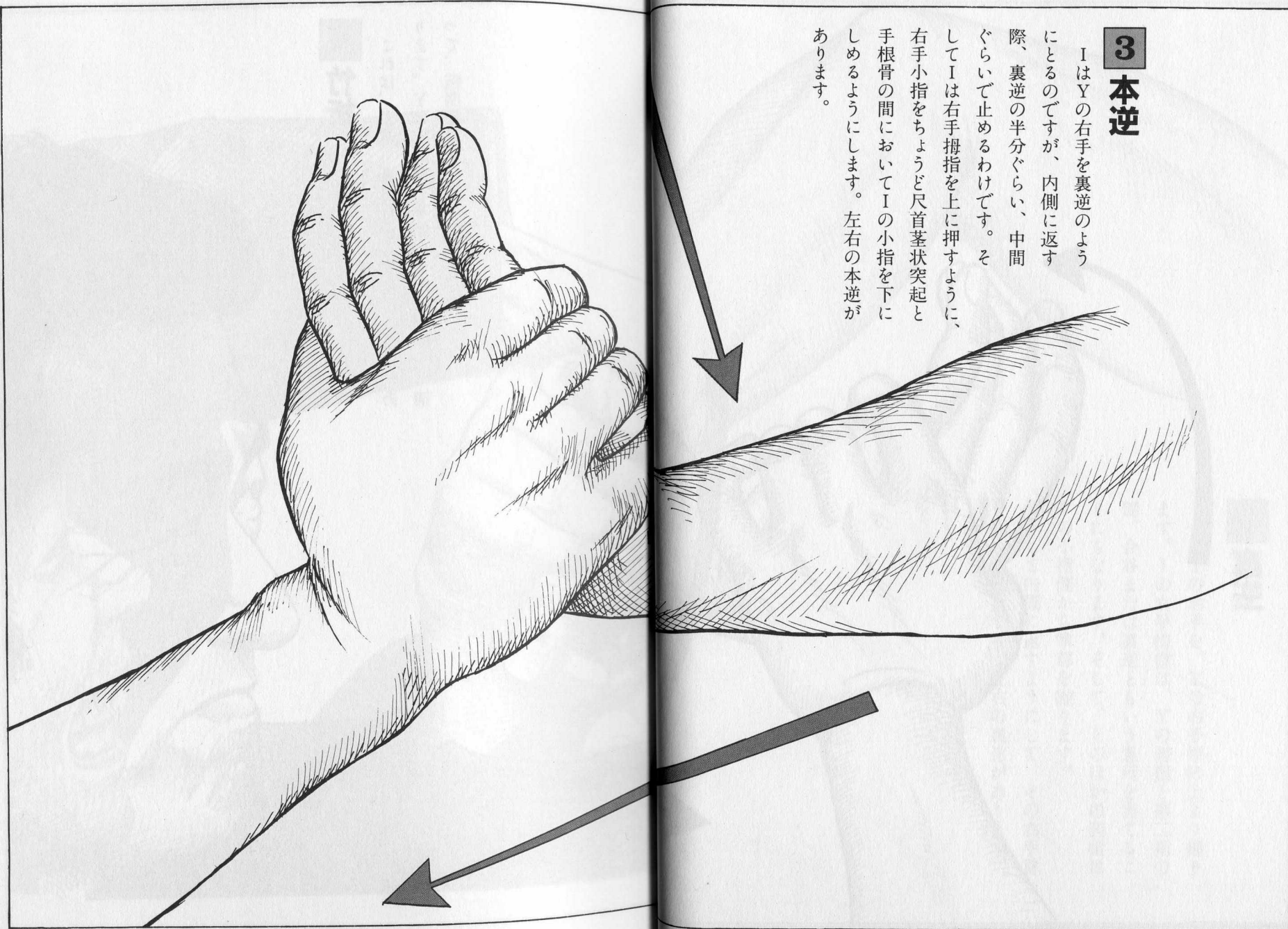
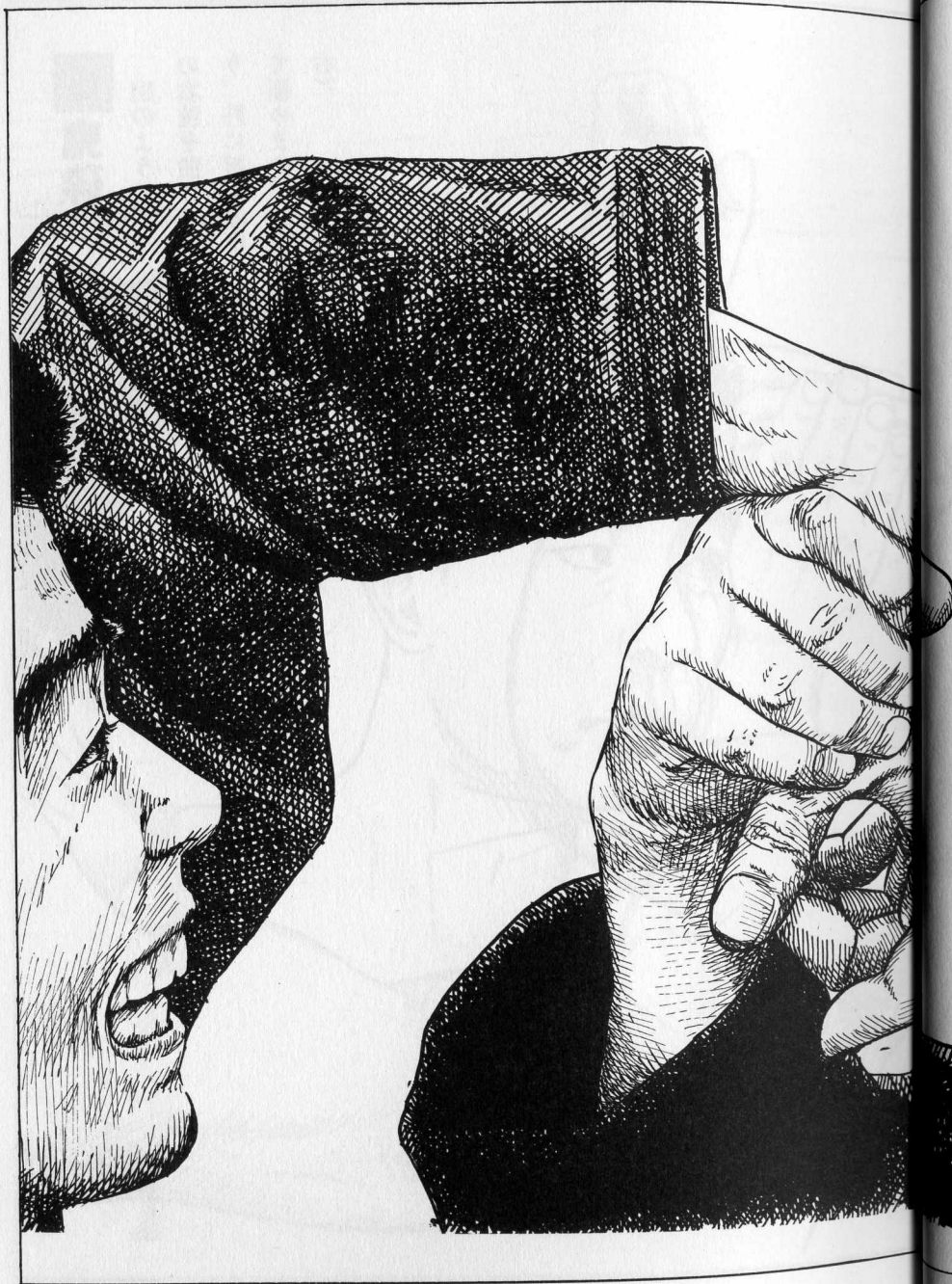
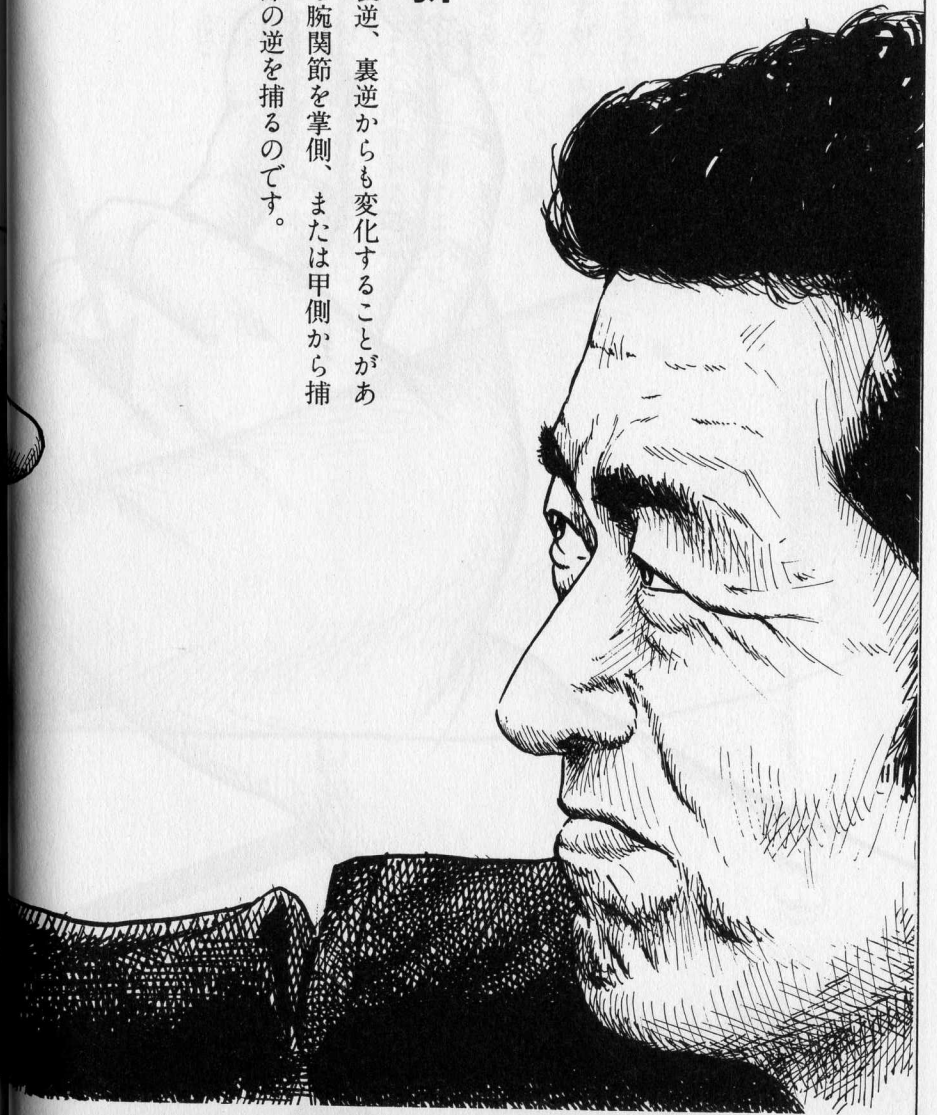
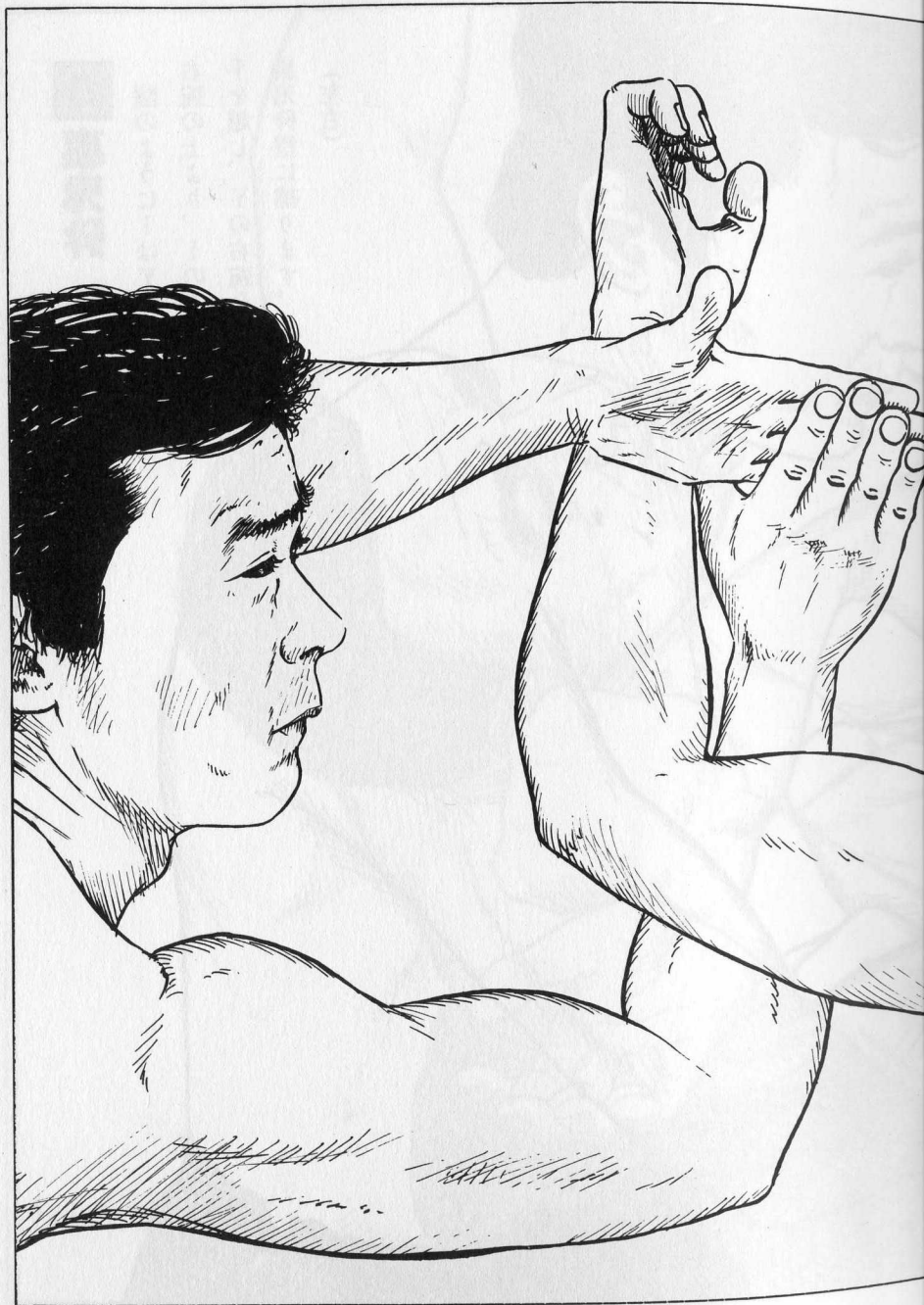
## 2 裏逆

IはYの右手を、Yの右手甲の上より握ります。Iの右手拇指は、Yの拇指と第二指の間、合谷または裏逆ともいう急所を当てることにもなります。そして、Iのほかの四指はYの小指側から掌部を握ります。

そして内側に返すようにして、その右手首を極めるわけです。左右の裏逆があります。

## 3 本逆

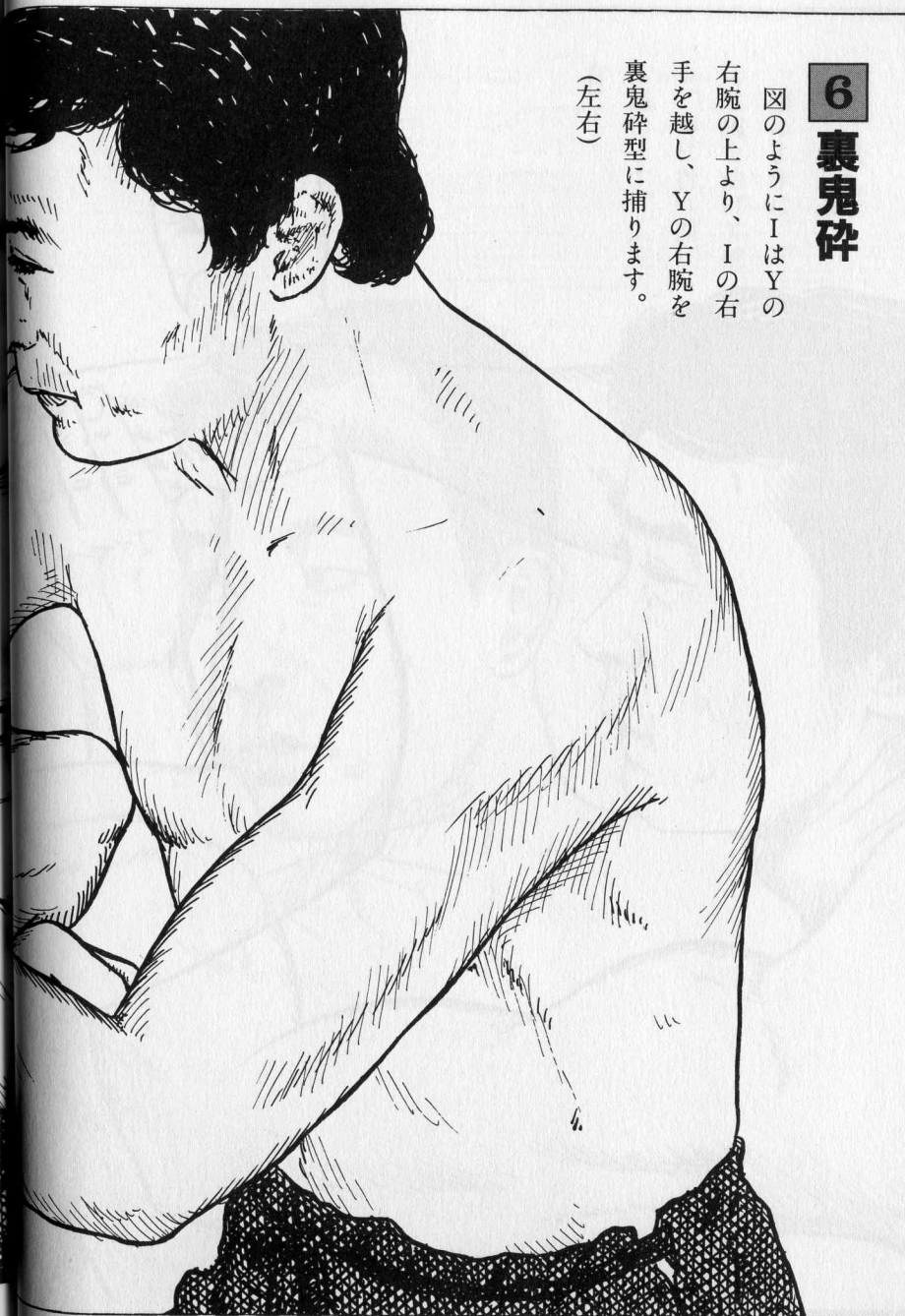
IはYの右手を裏逆のようにとるのですが、内側に返す際、裏逆の半分ぐらい、中間ぐらいで止めるわけです。そしてIは右手拇指を上に押すように、右手小指をちょうど尺首茎状突起と手根骨の間においてIの小指を下にしめるようにします。左右の本逆があります。

## 4 竹折

これは、表逆、裏逆からも変化することがあります。Ｙの腕関節を掌側、または甲側から捕って、腕関節の逆を捕るのです。

## 5 鬼砕

図のように、Yの右腕を曲げて捕り、外に折り曲げて極めます。（左右）

## 6 裏鬼砕

図のようにIはYの右腕の上より、Iの右手を越し、Yの右腕を裏鬼砕型に捕ります。

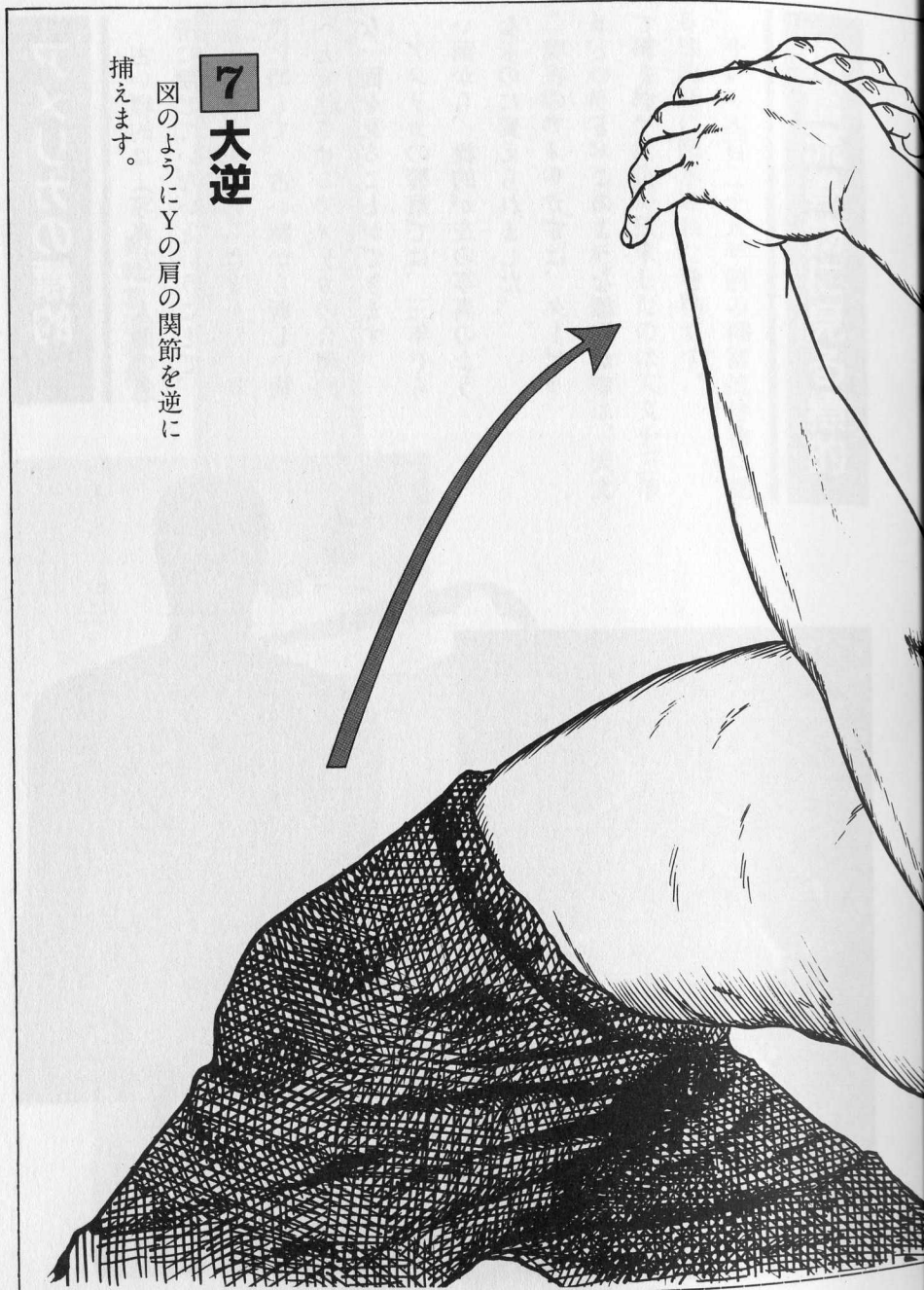
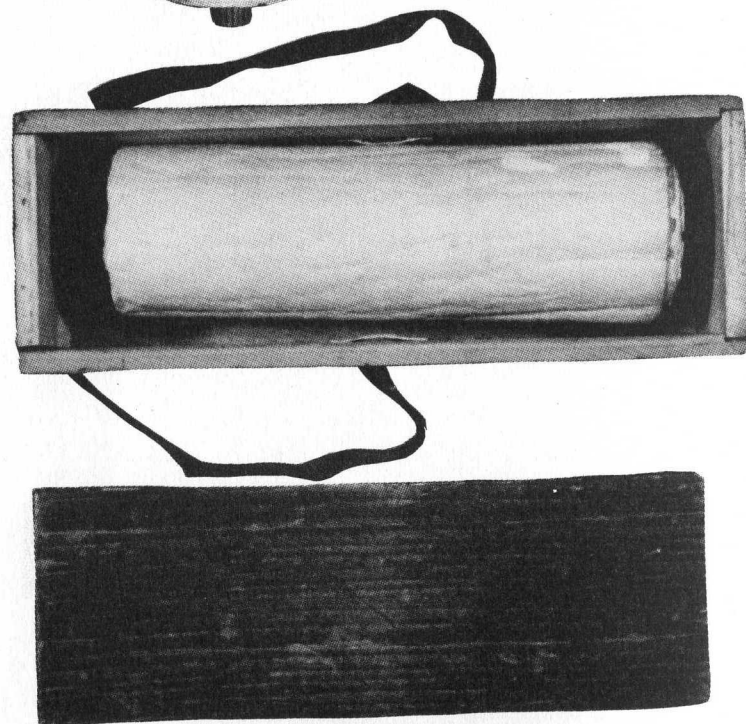
（左右）

## 7 大逆

図のようにYの肩の関節を逆に捕えます。

## アメリカの標的

古い標的は（写真左）、人間の急所に順じていないということで、ターゲットが変えられました。時代に即して、古い物から新しい物へと変化させるアメリカの合理的な一面を見ることができます。

アメリカの警察では、三年ぐらい前から、標的が左の写真のようなものに変えられました。

現在のアメリカでは、ターゲットというと、このような標的ができます。

## 稲富流巻物に見る標的

今から四百二十八年前の稲富流巻物に見る標的別に図示された巻物です。

種ヶ島へ鉄砲が伝来したのは天文十三年といわれておりますが、この巻物は、天文二十三年のものです。

▶稲富流巻物

〈1〉

〈2〉

〈3〉





〈4〉

〈5〉

〈6〉

〈7〉

〈8〉

〈9〉





〈10〉

〈11〉

〈12〉

〈13〉

〈14〉

〈15〉





〈16〉

〈17〉

〈18〉

# 虎倒流初傳中極意急所図

これは虎倒流骨法術の中極意の急所図である。

### ★骨法禁穴名称

| | |
|---|---|
| 裏鬼門 | 両乳の下、脇の下、四五肋骨間 |
| 柳風 | 喉笛 |
| 乱菊 | 又は霞、コメカミの処 |
| 飛龍乱 | 眼球 |
| 獅子乱 | 水月 |
| 虎勢 | 又は鈴、睾丸 |
| 夕霞 | 耳後凹の処 |
| 露霞 | 耳直下、アゴの処 |
| 龍門 | 肩骨凹の処 |
| 十字路 | 肩骨前方 |
| 弱骨または弱筋 | 腕中関節上下の間 |





| | |
|---|---|
| 大門 | 肩関節上下の間 |
| 朝霞 | あごの処 |
| 星 | 脇下 |
| 鬼門 | 乳上の処 |
| 禁穴 | 胸骨 |
| 腰壺 | 腰骨の中 |
| 声 | 腰骨凹の処、痛苦七日間とす |
| 天門 | 眼の上下、鼻 |
| 雨戸 | 首のリンパ腺アゴの下横手全部云う |
| 人中 | 鼻の真下 |
| 八葉 | 両袖兎戸と云う両耳のこと |
| 面部 | 顔面、ヒタエの処 |
| 独骨 | 出骨の処、咽喉 |
| 五輪 | 月影、ヘソの右横 |
| 五輪 | 稲妻　ヘソの左横 |
| 摧 | 左谷、足の内側太モモの処 |
| 右摧 | 右谷、右側 |

| | |
|---|---|
| 扼 | 龍下、足コブラ |
| 松風 | 一時三当、ノド凹の左右 |
| 村雨 | ノド凹真下 |
| 星沢 | 久関節凹の処 |
| 右陰 | 右眼の下 |
| 左陰 | 左眼の下 |
| 天頭 | 頭のヲドリコ処、凹の点 |
| 心中 | 胸部正面 |
| 脇壺 | 腕脇下凹の処 |
| 健骨 | 天骨四ヶ所 |
| 指壺 | 拇指の股の処 |
| 仏滅 | 両脇肋骨下三枚四ヶ所 |
| 裏鬼門 | 両乳真下 |
| 五輪 | ヘソ中央上五ヶ所 |
| 強経 | 足五指の上 |
| 歯止 | 耳タブ一寸下 |
| 雨戸 | アゴ両横真下 |



# 第2章 マイアミキャンプのゼミナール

▲裏砕き

## 海兵隊員の訓練

マイアミ・キャンプのセミナーには、海兵隊員の、ジャック・ホーバン君も参加していました。

　私は海兵隊の訓練に興味があったものですから、早速、彼に質問してみました。

「ジャック君、海兵隊では、ナイフ術の訓練をしますか?」

「はい、します。まあ一寸!!」

「そう、ぢゃあ、射撃の方は?」

「海兵隊員は、二週間で、二百時間の訓練をします。それから海兵隊員は、コックでも、女性でも、射撃の訓練をさせられます。そして、毎年、一週間の射撃訓練をしないと隊員として認められません。そのほか格闘術・障碍コース・ロープ渡り・モンキーブリッヂ・食べものが何もない所で生きる方法など沢山訓練があります」

　という答が返ってきました。そして、新兵などの士気を鼓舞するために大声を張り上げさせて前進したりするともいっておりました。

　精神力の必要性を感じているのは何も日本人だけの専売特許ではないということです。

▲腕捕り



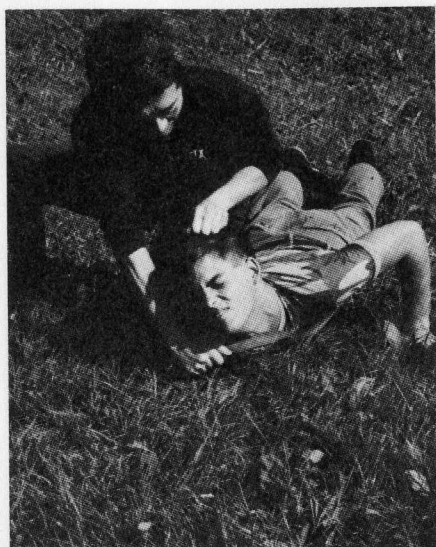


▲雨戸捕り

▲引き落し捕り

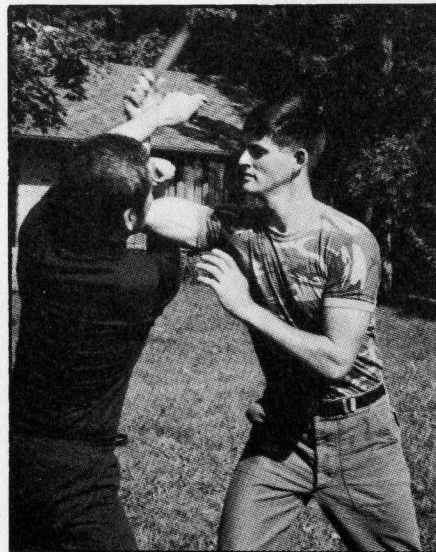
①Iは捕り
Yは受けとする
Nはナイフ

②Yは、NでIの右を突く。IはYの腕を受けてつかみ、NにてYの右脇に当てる。

③IはYの右腕を押し下げることにより、Nは自然にその腕に押されYの右脇に極まる。





③Yを引き落とし、頭捕り、首を極める。

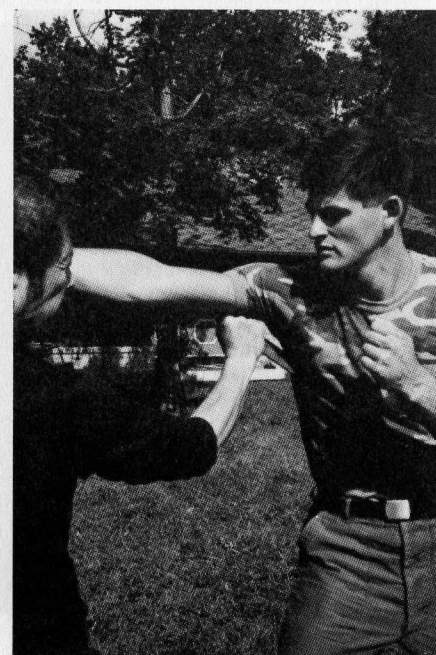
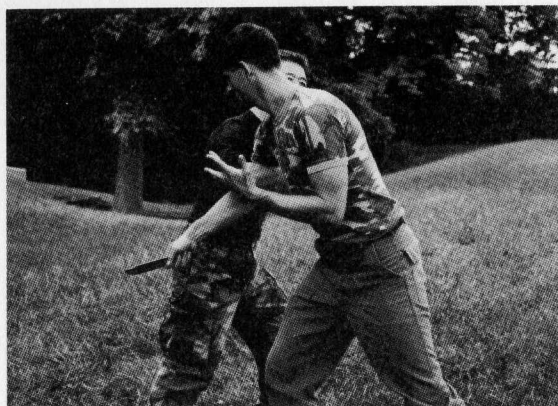
**Y右突きに対する別法**①Iは左に開き、その右腕をNに当て、腕折りに極める。

④Yが上段より斬りかかるのを、鬼砕き型にとる。YはNを落とす。

②Yの右手甲を突き、Nを飛ばす。

①Yの右突きを巌石に捕り、さらに左手を捕る。

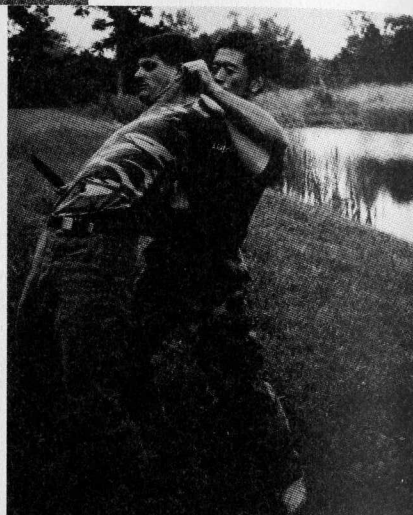
②巌石落としに極め倒し、Iの左手掌にて、その人中を極める。

③Yの右腕を折りに出て——、

④IはYの右腕大逆と頭捕りに極める。


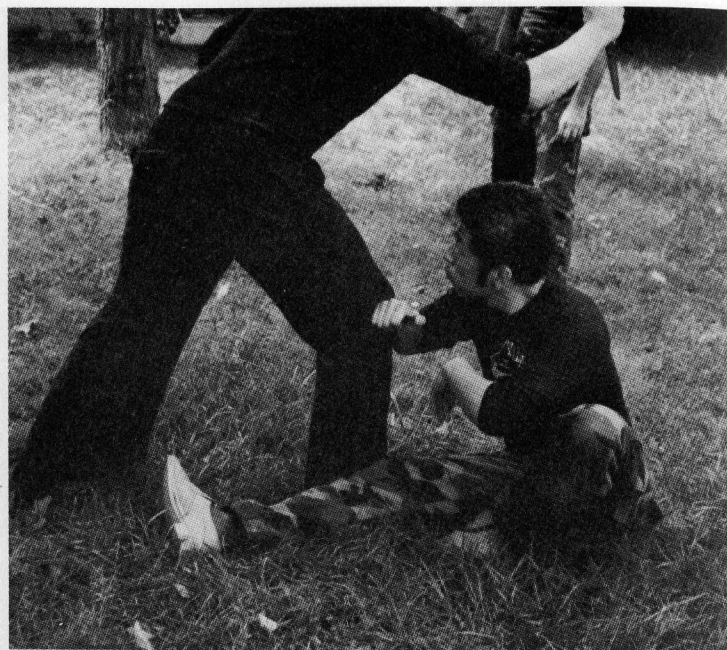



①YがNを持ってIの右を突く。Iは左前方に体を変わす。

②IはYの右腕を、上よりひっかけ、Yの後方に廻り、左腕をかかえて捕り——、

③I、Y共に後方に同じく倒れ、引き込み、Iの右膝にて、Yの背骨を極めると共に、IはNでYの右背部を極める。

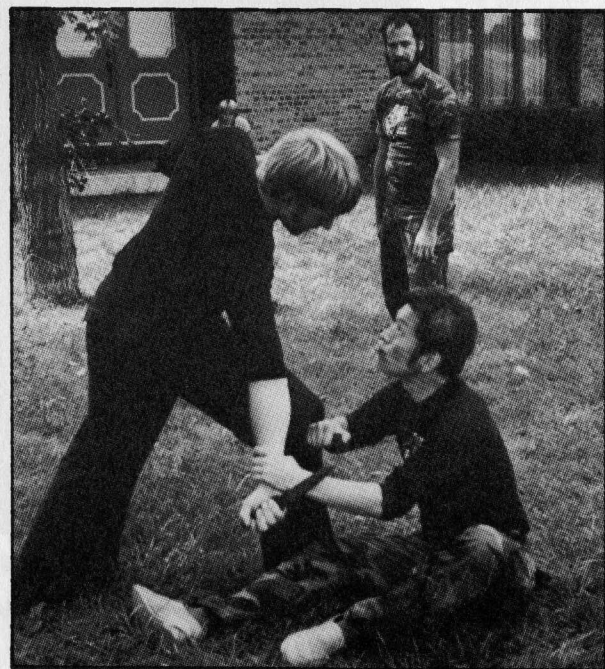
①Yが上段より斬り下ろしてくる。

②I立て流れに、Yの右側方に入り込み、IはNにてYの右膝裏に当て——、

③Yの右膝をIはNにて引くと——、

④Yは前方に転倒する。





①または、立ち流れよりYの左手を捕り、

②Iは、Yの右手を左手にて逆に捕り、右手に持ったNにて、Yの右膝裏捕りで膝を極めて、Iは左手でYの右手表逆型に左方に引き倒す。Yは横転する。すぐNにて極める。

①Yの膝極めより――、

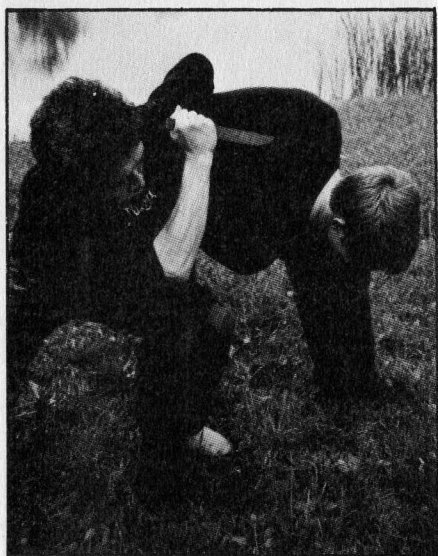
②Yが前に倒れてくるのを、Iは左肘にて後転しながら当て込み、

③Yの上体を一転させ、立ち上がりながら右手のNにて、

④Yの体に極める。





①Yの左腕を、Iの大腕にて後ろより抱え込みながら、Yの右腕を捕り、

②Iの体にて極め落とし、

③IはYの両腕を抱え、締めにゆき、Iは右Nにて極める。

①ナイフを体に５本差しに帯びたインディアン君が、Nにて斬りかかる。Ｉは左肩にてＹの右上腕をうけとめ入身。

②Ｙの後方に返り、ＩはＹの右扼から後当てにＩの左膝にて当てて捕り、

③Ｉは左膝極めの支点より体を変えて、Ｙの体を側方から後ろに

④倒し、Ｉの右拳にて、Ｙを雨戸左禁、右禁と極める。





①Larry Beaver
②TARO YOSHIKAWA
③Stephen Hayes
④Hatsumi sensei
⑤Bud Malmstrom
⑥Jack Hoban
⑦John Tatman
⑧Dan Johnson
⑨Charles Daniel
⑩Thormas Franzen
⑪Roger Stebelton
⑫Mikael Svens
⑬Roger Robins
⑭Kelly Hill

ＩはＹを前倒しに捕るなり、ＹのＮを捕り、おさえてこれから料理の構え。

オハイオ・デイトンの武神館一門の弟子達と

ナイフ術のトレーニングのあとで、ヘイズ君、ラリー君、バード君、チャーリー君にナイフ術のテイチングに対して感じたことを率直に話してほしいと、インタビューをしてみました。

ヘイズ「私はいままで教わったこともない技を、先生によって知りました。先生が教えて下さった技は、素晴らしいナイフ術です」

彼は私の弟子で、十数年のキャリアを持っています。

初　見「そうだろう。僕はね、どんな環境にも応じられるナイフ術、つまり、アクションがピーンとひらめいて、すぐアドリブができる……、それも考えることはなく自然にできる技、つまり、ナイフ術とか、短刀術とか、十手術、鉄扇術などという型式的なものではないもの。武器の種類、型などを考えないこと、無限なものを会得することが大切だと思っているんだ。バード君、君はどう思った？」

バード「僕はいままで、間合いやタイミングがわかっている、できていると思ってたんです。けれど、実際にはわかってなかったと思います。今日、先生に教わって、やっとわかったような気がするけど、やってみて、できるかどうか心配です（笑い）」

初　見「ラリー君は？」

ラリー「ナイフの受けに対して、いままでのテクネーでは用意していないとできませんでした。しかし、先生に教えていただいてから、ハエをはらう気になって、自然に技が出て、ナイフを避けられるようになりました。

レスリングとか、力でくる格闘技に対しても、力にかかわりなく避けられる自信がつきました」

初　見「よかったね。だけど、ハエをつかむとなると宮本武蔵ぐらいにならないとね（笑い）。さあ、そこで、インディアン研究家のチャーリー君は？」

チャーリー「まず、ラリーと同じように、ほかのテクニックに対して、落ち着きができました。急がず、間合いが見えるようになりました。

ナイフを見るとカッとなります。だから、なるべくナイフを見ないように考え、行動するという動きはいいと思います。先生を攻めて行くと、気がついた時には空間を攻めているようにかわされてしまってびっくりします。先生はどこにでもアタックできるように、何ていったらよいか……、つまり、私が先生を突いた時、もう何かに全部包まれて身動きできないでいるようで、オールポイントといった感じでした。まるで散弾銃で射たれるという感じです。先生の技は簡単です。しかしとてもむずかしく、私にはとうていできません」

初　見「武芸というものは、いつもいうように〝ノーパワー〟〝ノーガッツ〟。パワーやガッツが自分を不利にしてしまうんだ。原子力みたいな〝力〟で、自分で作り出したのに自滅してしまう。わかるかな？

リラックス、そしてハッピーな感覚。これが武芸なんだよ。みんなは、マーシャル・アーチスト、芸術家として練習してもらいたいもんだね。ピカソやマチス以上の芸術家に匹敵するマーシャル・アーチストになってもらいたいね。力を入れて稽古をするこれは労働者諸君にまかせればいい……」

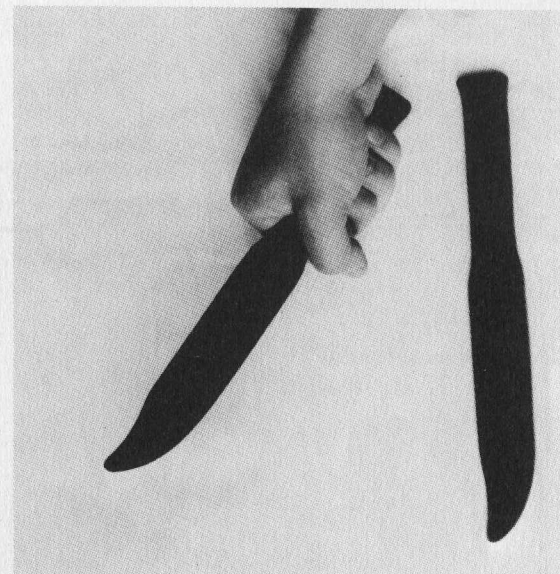
## マイアミキャンプでの彼等のコレクションを前にして——

◀水中の角についたナイフ

◀右手に持った大ナイフは、投げた時によくささるように作られている。





◀▼このナイフは、握り手を強く握ると、先端のナイフが開くようになっている。

## ルールを守る!!

ナイフ術、ガン術の練習に入る前に、これだけは必ず守って下さい。

ナイフは絶対に刃物の本物は使わないこと。本物のナイフは非常に危険である。したがって、写真のような、木で作ったナイフ(本刀)を用いること。または、ゴムでできているナイフを用いてもよい。

ガン術に用いるピストルも、モデル・ガン(プラスチック製または木製のもの)を使用すること。

危険性のないものを用いて稽古すること。



# 第3章 ナイフ術実技

# フォーム構え

ナイフ術でもガン術でもそうですが、小さな武器を用いる時は、手に何も持っていないという無刀型の心構えが大事です。

したがって、体術をよくよく訓練することです。

▲諸手の構え

▲正眼の構え

▲天地の構え

▲左脇の構えの構え（投げの構え）

▲平の構え（N横刃）





▲逆天地の構え（投げの構え）

▲下段の構え

▲刃下向き

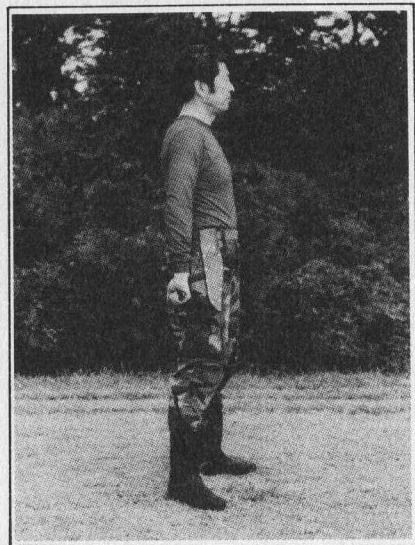
▲刃上向き

▲影の構え

▲自然の影

▲八字の構え

▲十文字の構え

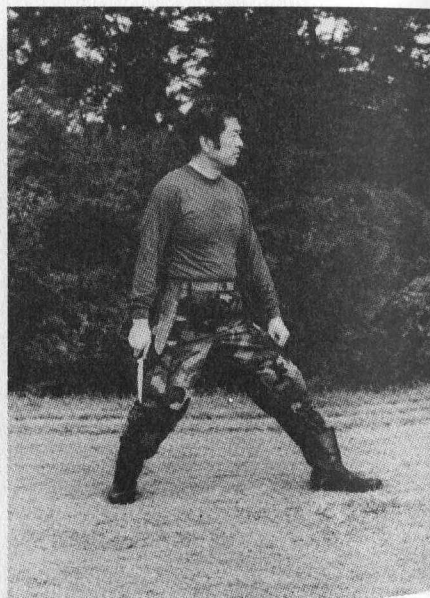
▲逆八字の構え




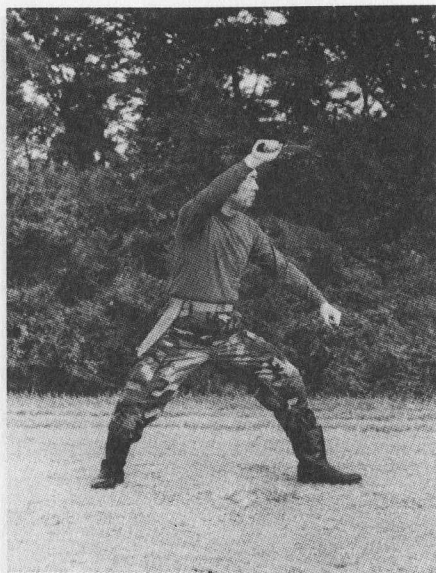

## ナイフアクション

①影の構え。

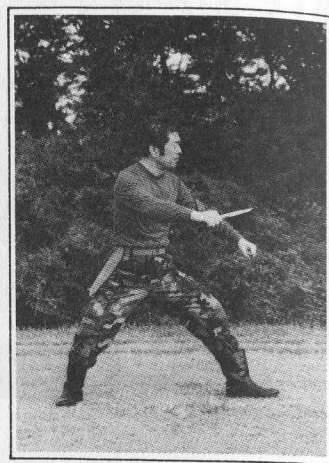
②左足一歩前後屈しながら、影のNA下向けに、

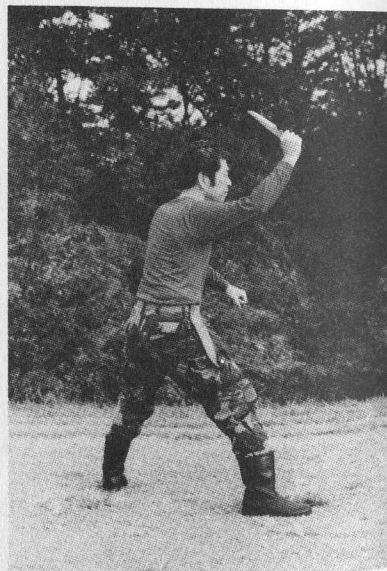
③左右の膝の屈伸軽妙なる柔軟性を生かして、

⑤右足一歩前進。

④右腕振り子の如く、同じく膝も柔軟に踊らせながら、

⑥体Nも膝も柔軟に手、体の伸びをうながす。左右のこと。





②右N右上に上げながら

①八字の構えより

④N右斜め内ちにはす切り

③右手首廻しながら、左足一歩前進させ、

④③よりN刃先、左上より右下へ斬り下げ。

⑤斜め上へ斬り上げ。

⑥斜め下より、斜め切り上げ。

㊟　いずれもスピード感覚で稽古するより、スローモーションで正しくこの動きを把握することが大事です。

体全体でダンスイングのように、ムービングして下さい。





## 体変術

体変術はピストルの体変術型と説明を加えております。分類すると、前転、側転、後転、空転、四方天地飛び、立流れ、横流れ、巴返し等があります。これは功撃進走受身型とも一如であります。この様な体変術に次いで、次に説明する捌き型や潜り型等も研究して下さい。

## 三▼捌きX型

▶八字の構えとは限りません。何の構えからでもよろしい。

◀左足を右斜めに交差の構え。

◀右足を右斜後方に変化することにより、変化十文字の構え。忍び横歩き捌き型とも言う。





## ミ▼捌き潜り型

▶風技と言う型。Yの攻撃を瞬時にかわす。木の葉捌きとも言います。

▲右足斜め前進潜り型の構え。左右のこと。

▲左足斜め前進。左斜め入身型。

## 三▼後方捌き型Ｘ型

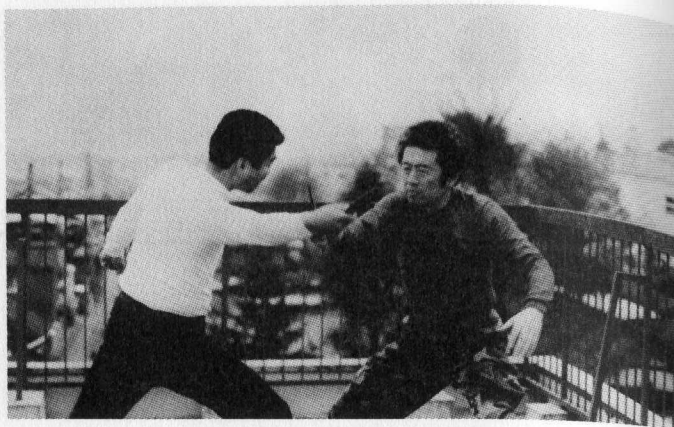
▶平の構えより

▲ＹＮ後方より右突き来たる。Ｉは左後方に気転による体変。左足を斜前に気転体変も有ります。

▲ＹＮ右突き、Ｉ右足右斜後方に気転による体変。右足右斜め前に気転、体変。





①ＹＮ右突きＩ右Ｎにて、Ｙ内側右小手Ｎ当て。

②ＩＹの右小手捕り。

③Ｉ体を後屈しながら体で左手引き、Ｙの雨戸をＮにて極める手だけで引くと言うことより、体でＹを誘い込むと言う体変の稽古である。

①ＹＮ右突又は斬り下げ、Ｉ外よけ。

②再度ＹＮ右突又は斬り下げ、Ｉは内よけ。

③Ｙ斬り下げ来る。ＩＮＦにて払いうけ、





④ＩはＹの右腕を受け、まわしはね上げる。

⑤上体落し、右Ｎ突き込み極め。

①YN右突き。Iの右小手内側よりNB側にて受け、

②Y右腕を回し上げながら、

③YN廻し上がった所で、





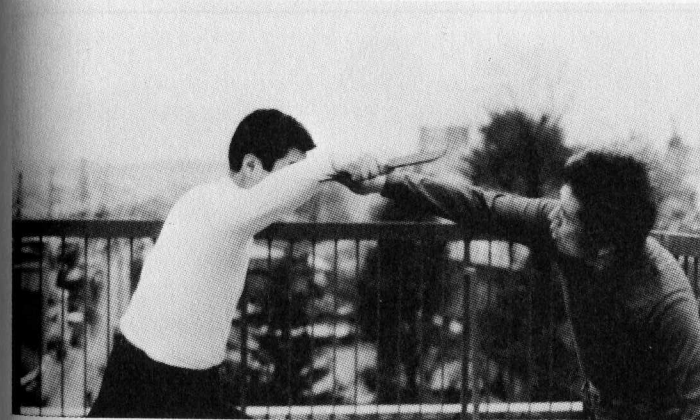
④I、NCにてYの小手を極めつつ廻し下げ、

⑤I左手にてYの右小手捕り、

⑥Yの右上腕を、Iの右前腕にてYを前下方に引き当て、落し極める。

# ナイフ捌き

▲これはN体を自由に捌き、使い分ける練習のものである。

①Y右突き。Iは右NDにて抱え込みYの弱筋当て、

②I右NDにてY弱筋を上より当て込む。





①Y右突き。I左に転じつつ、左腕にて払い上げ打ち込む。

②IはN右天地当て、即ち自然に右N振り突き上げと云うことになる。

▲ＹＮ右突き。Ｉは右足前転背抜き捌き、右ＮＤにてＹの声当て、Ｉ右膝Ｙの右框を捕っている。

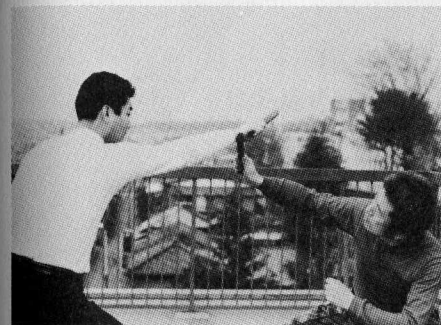
▲ＹＮ右突きを、Ｉは左足体変背抜きに捌きながら、左肘にてＹ仏滅当て、Ｉ右腕後ろ振り体変。Ｙ右腕跳ねよりＩＮ万変。





▲ＹＮ右突き。Ｉは左転右足蹴り当てる。ＹＮ飛ぶ。

## 体変払い技

▲YN突き。IN横刃にして上よりY小手打ち、即ちINCFの一如の使い方の骨法を云う。

▲YN突き。I体落しながら、右下よりNC斜下より斜め払い止め。変化出来る型である。

▲YN突き。IN体落し、斜め外下より右腕伸し受け変化待ち。

▶YN突き。I鬼角にてY弱筋打ち込み入身。変化待ち。



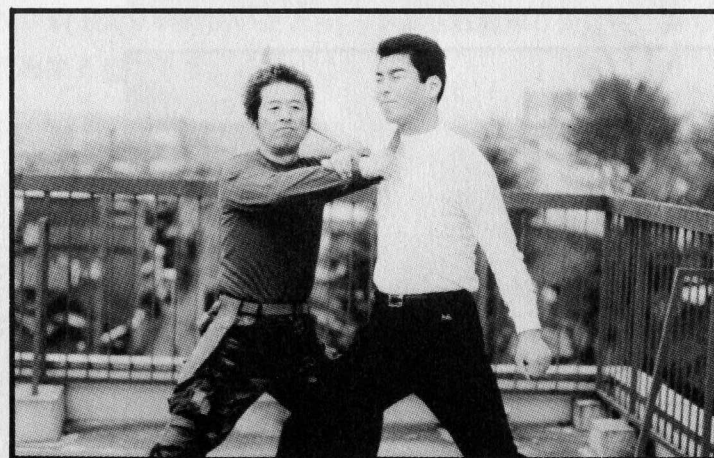


①八字の構え。

②YN右突き、斬りに来る。I右足斜め前に体変、入身。Y左雨戸翼切りに行き、

③I、Yの左手捕りながら体転。IN、Y右雨戸当て極め。

①Y上段より斬り込み来る。

②I諸手受け入身。即ちIは右手首を左手で握りながら、Y斬り込みをIN又はIN握り拳にて当てる。

③IN、Yの右雨戸当て。この際Iの左肘にてYの右腕を打ち込む、払いともなる。





④別法として、Yの攻撃に対しI諸手。Iは左前方にYNを受け流すごとく入身。

⑤ＩＮＢにてYの右腕を捕りながら、Ｉの左腕にてYの右腕を極め倒す。

①ＹＮ上段より斬り来る。

②Ｉは潜り型に左拳にて、下より摑むと言うよと当てかけて、





③Ｙ右腕下外よりＩＮＢにて捕り、

④Ｉは鬼砕型にとりながら、ＩＮにてＹの小手斬りに極める。

①ＹＮ上段より逆刃にて切り来る。

②Ｉは左足斜め前に前進。Ｙの斬り込む腕をＩの右肩に捕り、





③ＩＮ、Ｙの左首後方より廻し捕りに極める。

①I—N、YN上段より斬り来る。
Iは拇指外にしてY右腕捕り、
即ちI拇指Yの右手甲側にある。

②Iは体を落としながら潜り体変。
INをその左手に当てながら、
Yの右手をIの左手は表逆捕り
に変化して行く。

③Iは体を立ち上がりながら、I
Nを支点としながら巻き込み、

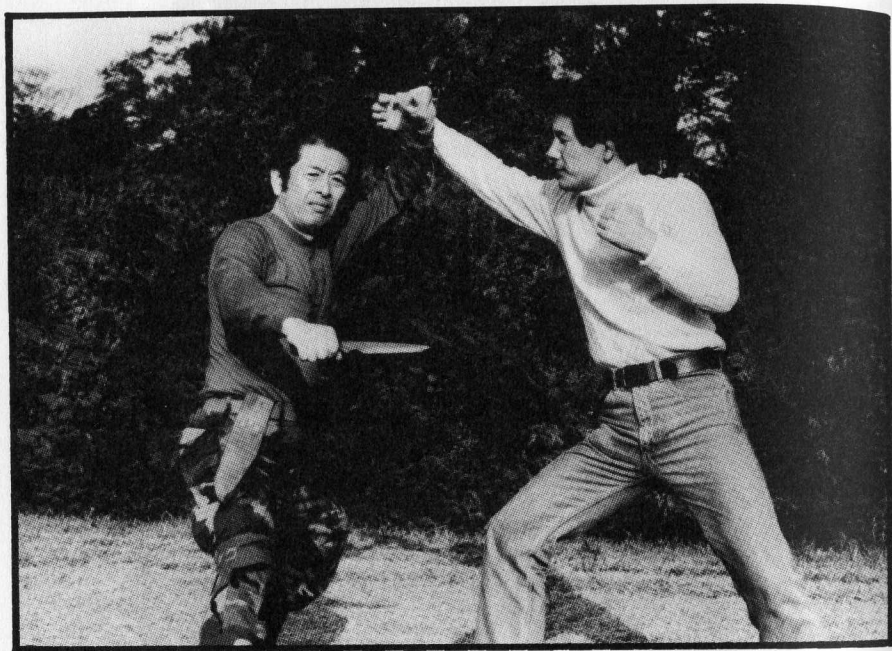




④即ちIの体を廻すことにより、
Yは倒れて行く。

⑤Yあおむけに倒れ
る。I—N、その右
禁に極まる。

## 両手払い

①Y左突き。INFにて下より払い上げ、

③I左腕にてY右腕をはね受け、IN突きの構えにて残心。IはNFにてYの攻撃をなるべくさける練習ですが、NC、ND等、Nをもつ拳それ等でナイフの刃を使わず、Yの攻撃に対し傷をつけない訓練である。

①Y攻撃の捕え、

②Y右突き。I左前腕はね受け、

③Y右突き。INFにて払い当て、

④INC刃返当てながら、



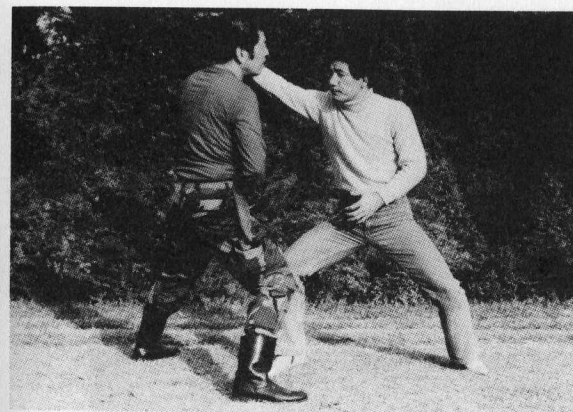


⑤Y左腕をかかえ込み、

⑥INB諸手捕りにて、体変しYの左腕捕り、

⑦体廻し落とし、Y右腕逆捕りとなる。

⑧INCにてYの左腕弱筋極め。

①Y右突き来る。Iは諸手にNを持ち入身。

②Iは右腕肘にてYの右併減当て同時IN、Y声に当てる。

③IN、Yの声当てに押し落し極めて行く。この際Y、右膝をI右膝にて左方に押す。

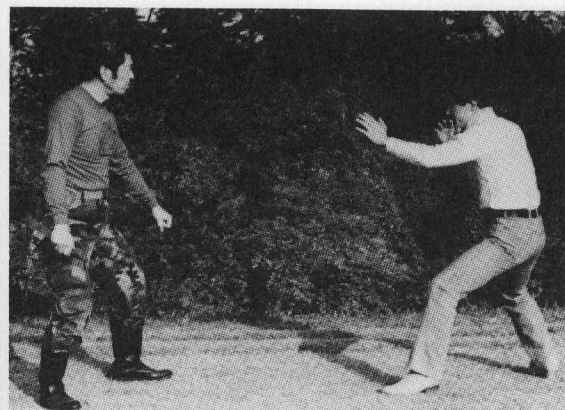




④IN押し切り同時、I右膝Y右膝側圧して行く。Yたまらず転倒。

⑤Y後方に倒れる。

⑥IはYの右抱の急所をIの右膝拳にて押し極め、Nを上段に構えて残心。

①INを逆構えにもつ。NC下向け、

②Y右突き来る。I左足一歩左斜前に体変しながら、NDにてYの弱筋下より打ち込み、はね上げながら、

③Iの頭体④越しの所で、IはYの右手を表逆型に捕りつつ、NCをYの左禁に当て、





④Iは右表逆締め、同じくしてNC同時体変に廻し、押しに出て行く。

⑤Yは倒れる。

⑥IはNCにてYの右雨戸極め、残心。

①Iは右手Nをもち、誘いの構え。

②Y右突き。IはY突きを膝の屈伸だけで、上体を変化させて体変。IN右手より左手に持ちかえ威嚇す。Y一瞬、攻撃心迷い止どまる。

③Yは一歩後方に引き、隙見て右突攻撃に出んとす。

④Y右突き。Iは体変しながら、IN右手に移って上段威嚇の構え。





⑤瞬間、Yの右突き腕をIの左肩と左腕にて捕り、体の変化によりYの右腕逆どりに行く。

⑥IはYの右雨戸をINにて極め。

⑦Iは腕逆と雨戸当てのまま体変。押し伏しに極め。

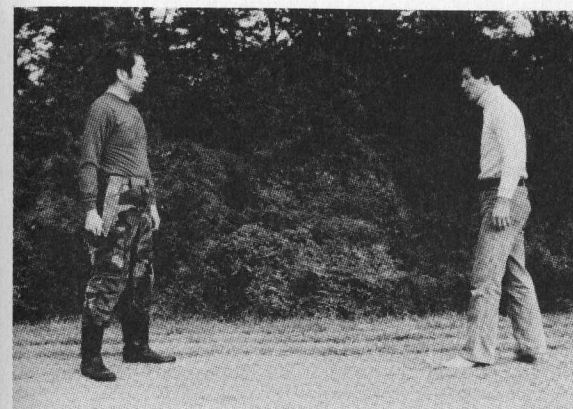
①YN右突き来る。I体を素軟に風の如し、YN蝶の如くひらりと体変。この体変は、体の素転により近くの攻撃を、瞬間に足を動かすことなくNを避ける大事な動きである。

②YN右に流る。IはYの右雨戸を、I右腕横振りの振り運動の如く、INDにて、Y左側どこでもよい急所当て。I無意識の打ちの事。





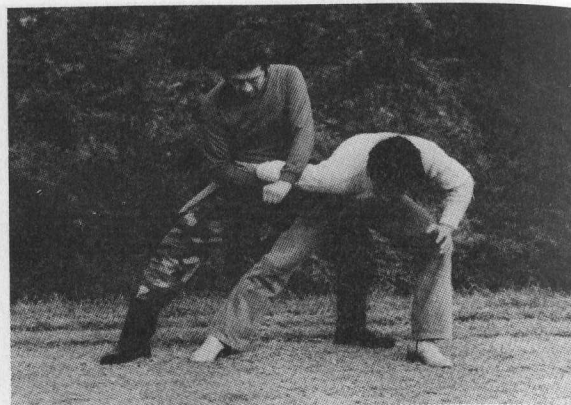
③IはYの右腕を抱え込み、体にて押し逆にして、Y体を伏向けに極める。

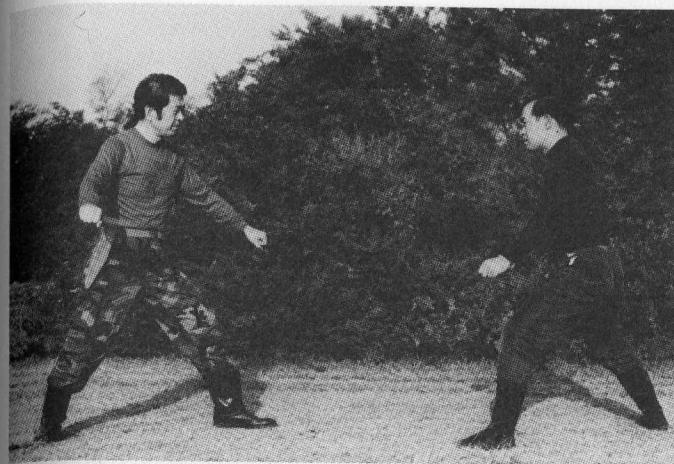
①この技は、Nをどこにかくしているかを見破る術である。YN右突きに、隠しNて来る。INも隠し構え。

②YはNを右突き、N前腕に秘める。Iはそれを察知、掌当てにて探ぐる。

③YN隠しをとりいだし、YN右突きに再度来るを、Iは右腕にて抱え捕りながら、左腕にてY右肘逆捕り。





④Iは左膝にて、Yの体を浮かしながら、調子捕りに出て、

⑤IはYの体を前方に捕りながら、I右膝にてYの右足捕りに。体膝打ちに当て、三ヶ所一度に極め。INはY右催極めている。

①相対にNを持ち構える睨み構え。睨み構えとは、眼の変化虚実を用うるものである。眼空となる。

②YN右突き来る。Iは左足斜前体変。I右Nにて釣型に、NFにて抱え、



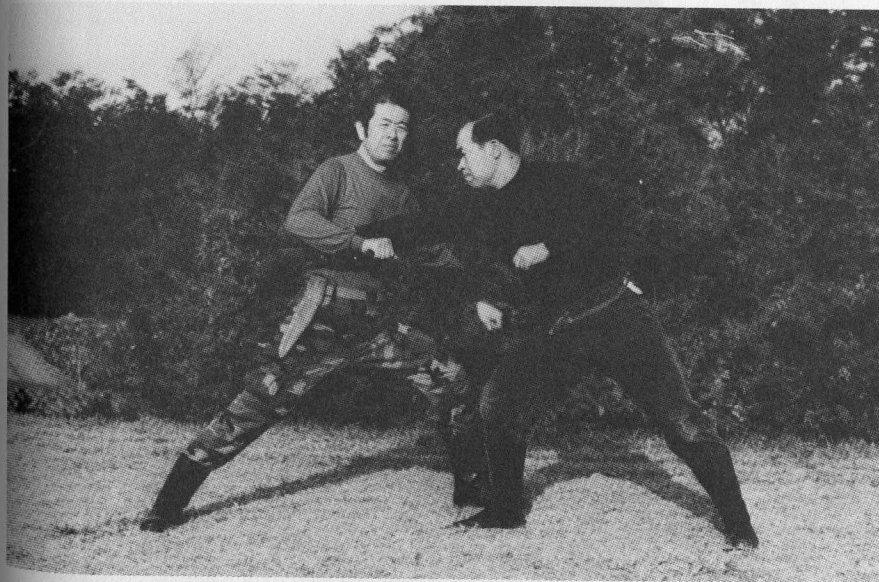


③INにてYの右腕をひっかけ捕り。IはYの左腕を、Iの右手にて後ろより捕る。

④Yの諸手逆に捕る。IはNにて、Yの左腕切りに極める。

①Ｙは右脇より、Ｎにて斜め切り上げに来る。

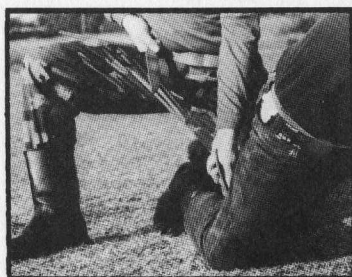
②Ｉは体変。②〜③への膝の屈伸による体変は、軽く大きく体振る。練習の事。

③ＹＮ、再び前屈に空き来る。Ｉは後屈にて体変。





④ＹＮ伸び来るを、Ｉ前屈斜膝体変。と同じＩＮにて、Ｙの右小手打ち押し。

⑤Ｉは、Ｙの右小手をＹの右膝内側に押えつけ、入身。

⑥ＩＮにて、Ｙの右小手極めながら、ＹＮを捕る。

⑦ＩはＹＮを左手にて捕り、そのＹＮにてＹの後ろ抱を押し、極める。

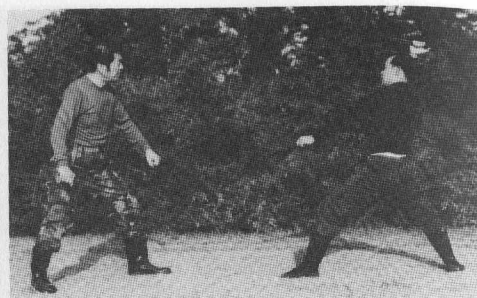
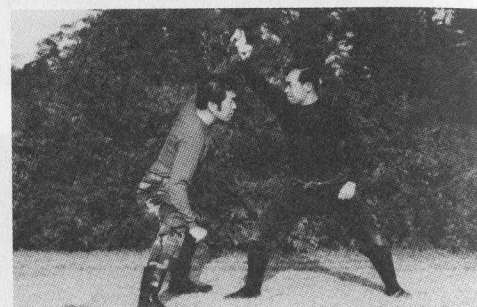
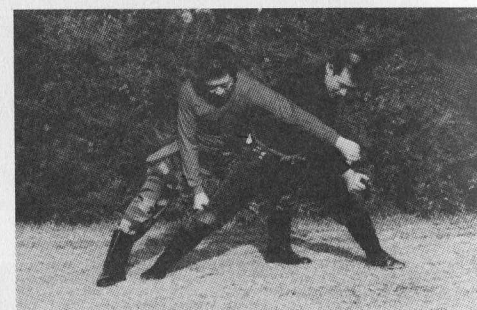
①ＹＮ斜切り来る。ＩＮも前腕にて相斜め受けに出る。この際、Ｉの右膝Ｙの右脛管に打ち当てる。上下打ちとなる。膝の屈曲拳を用いる。

②Ｙ右膝を体変。Ｉの両腕にて、Ｙ右腕狭み捕りに。Ｙの右腕を逆腕攻撃、同時にＩの左足脛骨にて、Ｙの右足裏より抱を押して行く。Ｉの体を落とすごとくする。

③Ｉは右かけ、腕手前に左前腕、Ｙの右肘捕りに。Ｉの左足Ｙの右足押捕り。一所拍子捕りに前倒しに極める。

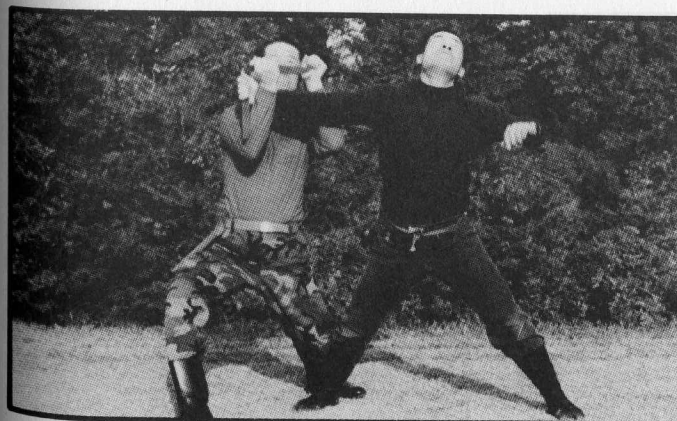
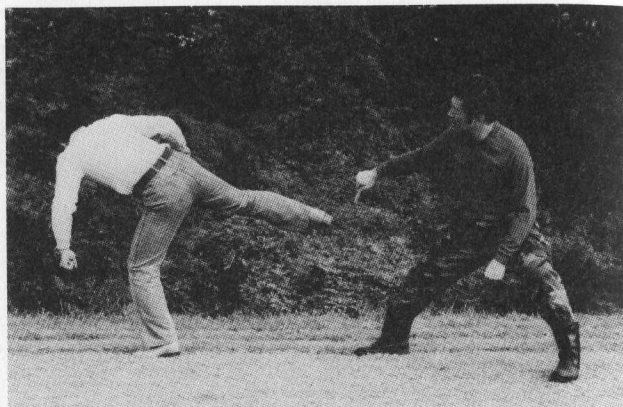




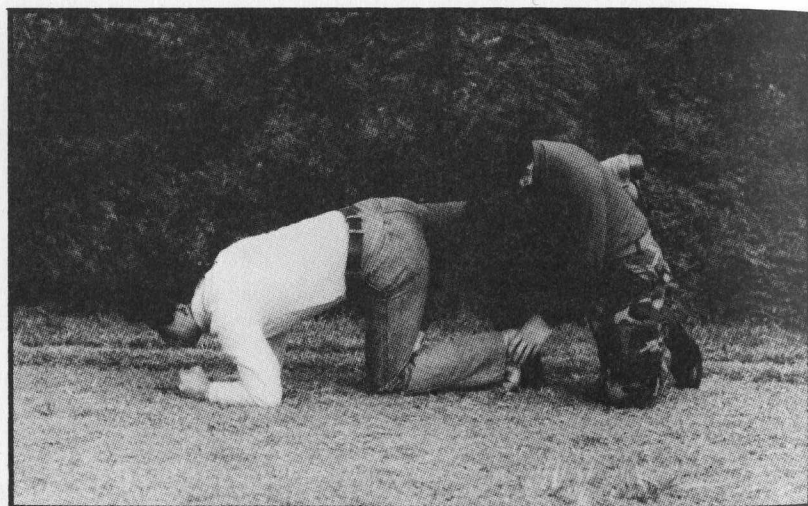
①ＩＮ自然の構え。ＹＮ上段より斬り下しに来る。

②Ｉは潜型にて、左手にて跳ね受け、Ｉ右腕にてＹ右腕外より受け、Ｙ体にＩ右腕押し、体入身によりＹ体を左向けにする。

③Ｉは左足、Ｙの右足後ろに入身。ＩＮにてＹの右膝に極めながら、Ｙの右腕肘は、Ｉの左手にて極められ、動かすこと出来得ぬ。

④ＩＮＣ、Ｙの右膝極め、Ｉ左腕Ｙ上腕上体極め、捻り落とし倒す。極め。

①相構え。Y右蹴り足に来る。

②Iは左足を斜め後ろに引きながら、Yの蹴り足を伸ばすだけ伸ばさせ、Yの右足蹴り足かえりきばに、

③Yの右足払い上げに行く。即ちIの右NDそのポジションだけで払い受けるにあらず。右ND腕体一体にて行く骨法。





④Yの上体を、後ろ向けに払い押すことになる。

⑤Iはその瞬間、Yの左膝後ろより潜り型にて、INCにてY左膝折に押し倒すことになる。残心。

①Y右足蹴り来る。Iは右Nにて、Yの右足下よりNにも、すくい捕り。

②Y左拳突き来る。Iは左手にて、Yの左腕外側よりYの左拳を捕り、この際Iは手で捕るを第二として、体で避けて後捕る。余裕を身につける事。

③I体落しと同時、Yの左手下に引き捕り。Yの右膝外から体のバランスを崩す。

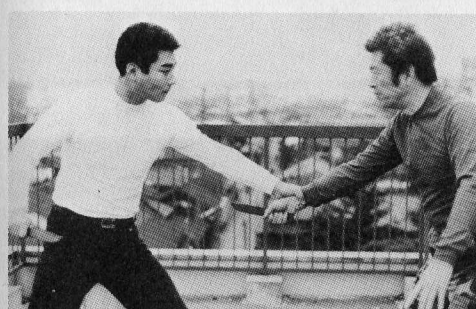
④I左膝落すことにより、Yの左肘逆となり、Y体捻り体逆となる。IN上段に構えたまま。

⑤Y左腕外側より、INにて上腕を切り捕りに引く。

⑥I体は右に開くことにより、Y体崩れ痛みの為、

⑦Y体バランスが崩れ、側倒に極まる。残心。

①Y手にてIの右手捕りに来る。

②YNにて突かんとする。I、YNAを一点に絞られ凝視する事なく、身体全体の気を見ること。

③IはYの左腕外より、INにて外廻しに捕り、Y体右N突きを崩し、

④すかさずY左腕をIの右手に捕り、引き込みながら体がえ。Yの右腕星を、INにて極めるようで、Yの左腕肘が極められているのである。残心。





①Y諸手にて、Iの右手首捕り来る。

②IはNCをYの右前腕にかけ、引く、押し捕り。気のままに行く。IN手首だけに行くのでなく、右膝を見て下さい。体を落とし、体でY手首を踊らせているのです。

③IはNに左手そえて極め、Yの右手をはずし、

④再び、IはYの左腕下より、INにて外側より捕り、斬り落とす。又は、Y手首裏逆本逆に捕るか、手解きの変化の練習、その最法を会得する。

①YはIN右突きを、体を開いて表逆型にとらんとす。

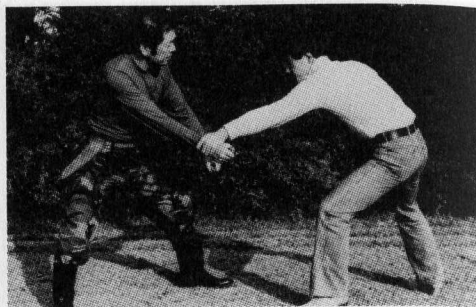
②Iは体変しながら右腕を伸ばし、Y体崩し、右膝にてYの左膝捕りに行かんとす。上腕、下肢の虚実の体捌きである。

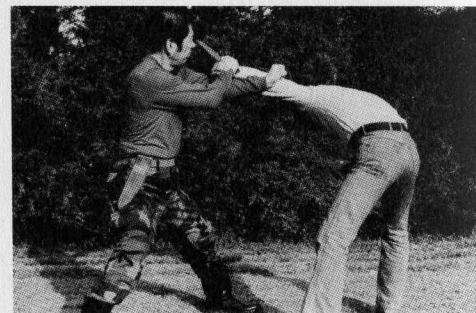
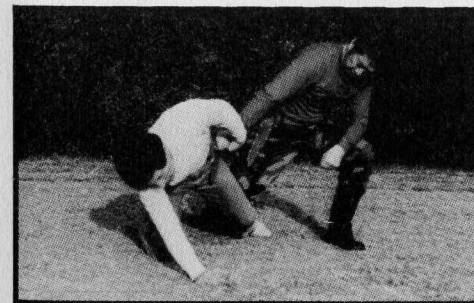
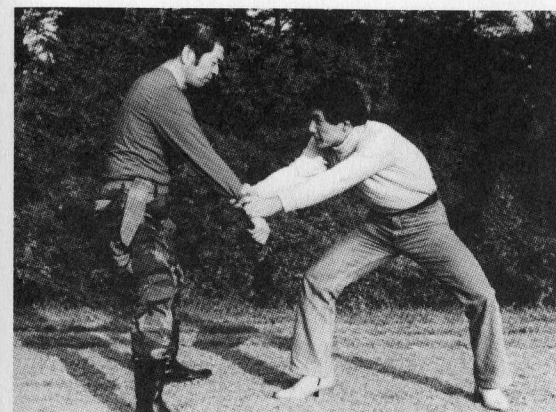
③Iは右膝にて、その左足を極めながら、Yの変化に応じて行く事が大切で、相手の動きに乗ずる骨法を会得しながら、自然勝身の訓練をする。

④IのYへの足極めは、Y中途で崩れるI右Nにて、Yの左声脇等を極めながら、自然捕りのこと。





①YはIの右手を捕りに来て、右拳にも突かんとす。

②Iは右N外より廻しながら、Y左手裏逆引き込み、Yの右突きを殺す。

③Iは体立ちあがりながら、左拳にて外よりYの左肘を極めつつ、手首を返しながら、Yの左前腕を左手に捕りに行く。

④即ち、Yの左腕を連絡捕りとして、I右NにてYの左脇極め。万変の骨法会得、軽妙なること。

①YはINの右手首を、両手にてしっかりと引き捕りに来る。そこに乗じて、N体の調子捕りの骨法を利して、

②IはYの右手下より、Nを廻し込みながら上にあげ、裏逆捕型に行く。本逆の場合も有り。

③IはYの右手を、Nにて狭み捕る。I左手NBそえると同じようにして、左膝にてYの右膝側当てに捕りに有る。

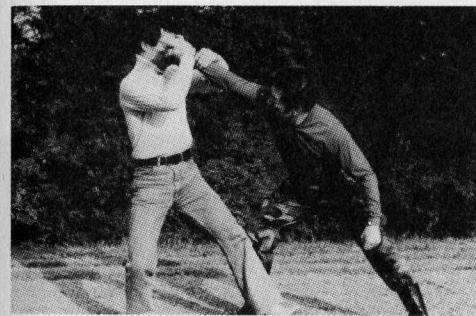
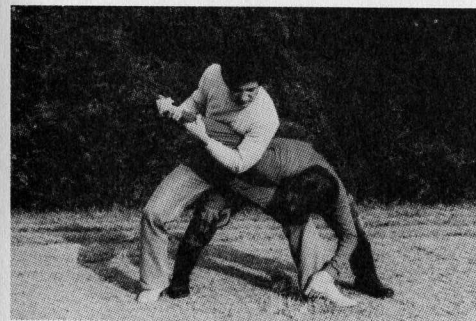




④Y右膝極まる為に、右膝折敷きに落ちる。Iは右NにてYの両腕捕りのまま、Iの左腕にてYの頸締めに極める。

⑤Y体を体にて後ろに引き上げつつ、IN、AYの右雨戸にとどめる。残心。

①睨み構え。

②IN右突きに行く。Yは諸手にてIの前腕を捕り、体を入身して来る。I右手その逆捕りを突き込み捕らせ、よく虚実に行き、

③Yは体を変じて乗ずる。Iの右腕抱え逆折りに出る。I左手拳、Yの左足時に当てる。

④Iは右肘拳受け、仏滅当てに出ながら、体を立てなおし、Y体側前方に押し崩し、変を遊びながら、





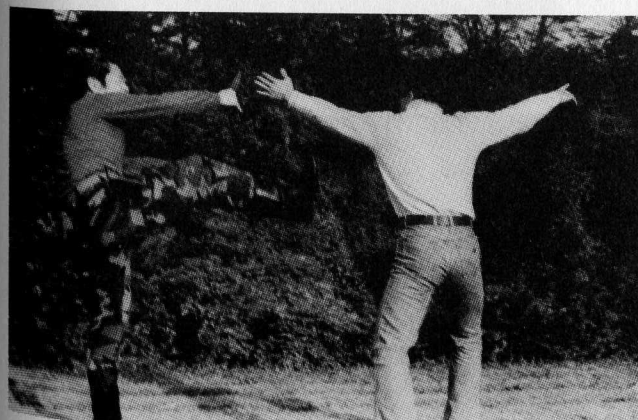
⑤IN、CYの左雨戸当手に出る。Yたまらず両腕はずす。

⑥Iは左前腕尺側拳にて、Y左膝足裏を打ち落とす。と言えども、Y体をゆすぶり捕り、逆海老捕りに行く機を見る。

⑦Y伏向けに倒る。海老捕りとなる。Y背骨折りの為、苦痛が激しい不動なり。

⑧IはYの右下腿裏を、右膝にて体打ちに出ながらIN急降下に極める。

①Ｉは Ｎを右より左斜上方向に切り上げ、押し切り、突きに出る。

②Ｙ体変。左手にて、流れるＩの右腕を下より払い上げる。三心払いと言う。

③Ｉは払いをさからうことなく、右足蹴りの調子で行く。行雲反射的に出る。調子自然の事。Ｙの左前腕を払い蹴り上げとなる。





④Ｉは左手にて、Ｙの左腕外側より掌にて当てながら、体押しに出ながら蹴り落とし。足Ｙの左強頸を踏み当てながら、ＹＮＣにてＩ左脇極める。強頸とは、左右の足、五指の上を言います。

①相構え。虚実の構えのこと。

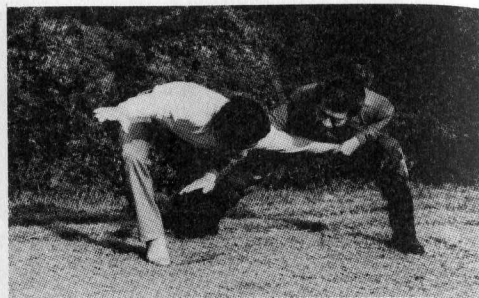
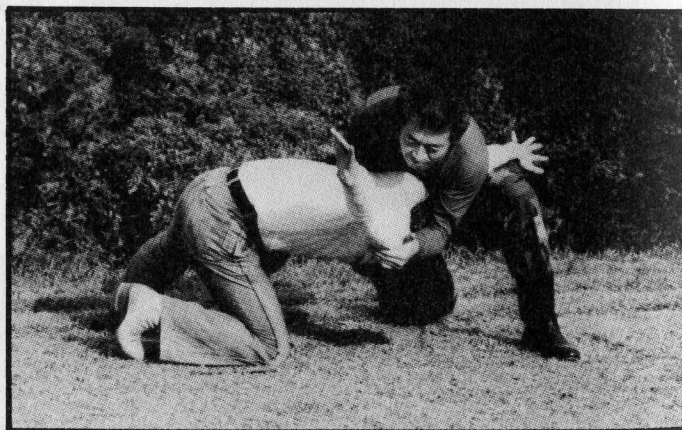
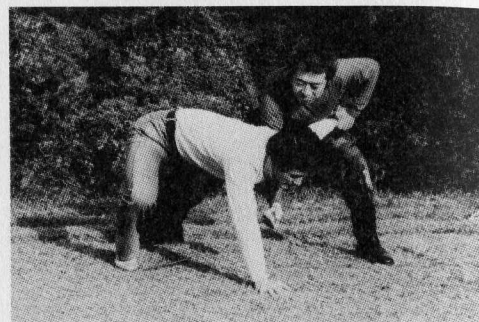
②I右突きに行く。YはIの右流れを体変と同時、左拳にて上よりたたき落とす。

③Iたまらず N を落とす。Yしめたと、一瞬気をゆるめる。I騒がず、負けをあたえて勝をとる。真剣型の心意気にて。

④Yの左手首を、Iは左手で軽くつかみつつ、変化順応。





⑤Iの右手支点にして、Yの左腕体を捕り体落としに。Y左足を引き廻り返しの虚実に、Y体を不安定とする。

⑥Yたまらず前倒し、その左手逆押え型となる。Yたまらず右手にてY体を支える。為に前倒しに受け身に出んとする。Y左腕Iの左大腿にしっかり捕る。

⑦Iは左腕を体にて前押えに極めつつ、Yの右腕、Iの左手にて捕り、大逆に極める。両翼捕りに極める。

①I上段より突き落としの構え。
Yは体落とし構える。

②Iは右N突き下ろす。Yは鬼砕き型にI腕を捕りに行く。即ちYはIの右腕を左手にて前腕うける。右手はIの上腕下外より入れ込み、Iの右腕を屈曲させて捕る。

③IはYに鬼砕きを捕られる。瞬間、左拳にてY後頭部血止め当てる。





④IはYの左歯止めを、I左拳にて押し打ちに極めながら、NAをY顔面に行かんとす。

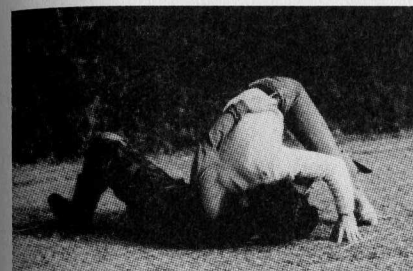
⑤Yひるむを、INにてY左腕捕り、I左腕にて首締めつつ、左膝拳Y足右抱き極めに行く。三ケ所攻撃となる。

⑥Yたまらず両手はなす。

⑦INY右雨戸極める。

①IN振り下し、亦はIN右突きも同じ。Yは両手にてI右手をとり、背負投げになげんとする。Y左拳を抜き当てながら、

②IはYの右肩からI右体をすべり落ち倒れるごとく、横受身の如く、体変。

③I左手、Y体を抱える。I右NはYの左権に当てる。I左手Yの左脇捕りのまま、

④INA、Y権を当てる。INDは必然的に、Y左仏滅に当ても可能である。

⑤Yの左足大腿を肉狭みに捕りながら、Y体を捕り二つ折りとす。INY左権突き通し切りに極め、NDにて返し左仏滅砕きの反動にて、Iは立ち上げる。





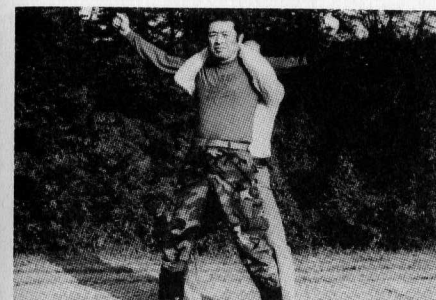
①Y後方より、諸手にてYN体突きに来る。

②I察知術にて、左足後方斜めにYNしのぎかわしに出る。すれすれにかわすと言うことである。Iは避けすぎてもいけない。間のよしあしで、Iの反撃可能とするからである。

③Y体合致する瞬間をはずし、前後I右肘拳を上げ、Y朝霞当てと行き、

④両足捌きなく、膝の屈曲体変により変化。その際、I右NCにてY小手打ちに出る。

⑤Y心中INにて突きあげ、同時、Yの頭部（古くはタブサ捕り）引き倒す。残心。

①Yは I の両腕下より、後方から両翼捕り、首捕りに来る。

②I は左臀部より左後方に体を抜き、

③I N Y の右膝後ろより極める。たまらず両手はなす。又抜ける際、I N D にてYの権の急所打ちもよし。I 両腕張りつつ。

④I 体変に体を抜き、Yの天頭 I N D にて当て倒す。





①Y I の両腕上よりカンヌキ締め、後方より捕り来る。I 両翼一寸張りゆるめ、その瞬間に手首自由とする。

②I N C 一寸刺しにてYの両腕をほどく。N C とは限らず、N F にてもN B N D にてもよし。I 左手拳にてY急所捕りもよし。

③I 両腕軽く開きながら、I 左脇下を開きながら体変。Y首を左腕と抱え捕りに誘い込み、

④I 左腕拳にてYの顔面捕り。右Nにて極む。又この体勢にて首投げにてもよし。I 左大腿膝にてもよし。後ろ重身に捕る。

①Y①②、Iの両腕両手にてしっかりと捕る。
この際一番大事なことは、YIYZが力を入れて捕るも、我れは両腕体とも力をぬくことである。

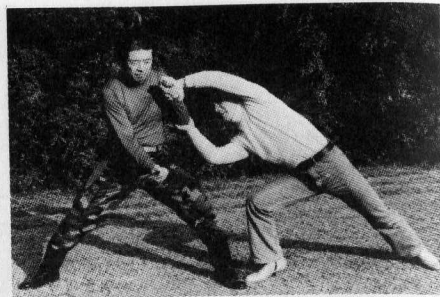
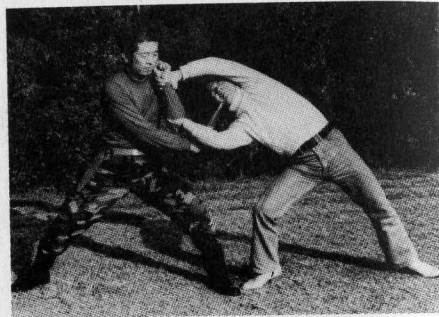
②I体変しつつ、INY右腕外より返し捕りに行き、

③INにてY①の両前腕廻し極め、突きと引きと変化する。勿論Y①体Y②体踊らせる。

④Y①倒れる。I体変にてY②の調子を許りつつ、





⑤I左腕Yの左腕外側より手前に返しつつ、しっかりと引き崩しに出る。Y②体のバランスとれず。

⑥INA、Y右顔面押え当て。Yの右腕極めつつ、INC、Yの右腕肘を極めゆかん機をねらいつつ、

⑦Yの左手首をIの左手なし捕り、斜め後方にYを引く。I右NはYの右腕支えるのみ調子捕り。

⑧Yの最高の崩れを、いつでも練習によりその限度を悟り保つこと。Iの両手支えとなる。I両手一寸抜くだけで、Y体たまらず仰向けに落ち倒る。

# 第4章 ピストル術実技

▲アメリカの一警察の射撃場にて

▼アメリカ警官のジョー君と共に

アメリカへ着くなり、開口一番、友人に言はれた言葉は、アメリカでは「あまり武道家と言はない方がよいですよ!!」と言う一言であった。そして又、武道家と言う一言がビジネスにマイナスになると言うことであった。武道家と言う、エリート意識は、日本でしか通用しないと言うことである。何故だろう。

私には一趣のお国柄のものの見方、考え方だろうか？と深く考えないことにしたものの、忍者特有の条件反射が、彼等の根底を突き始めていた。ニューヨークでのマーシャルアーチストえの指導は、大成功であった。私のテイチングに対し私が何をもっても自由にこなす。大の男を自由に、数人相手に踊らせる。彼等は私を称して、ニアーマジッシャンと賛辞をランゲーヂと共に示してくれた。扨てアメリカ縦断、道々一警察へと立ちよった所、武道家が底辺に見られているゆえんを発見することが出来たのである。警察では、ポリスのジョー君が、署内を親切に案内してくれた。署内にはトレーニング場があった。ボディビルや、体を鍛える為のものであろう。色々な器具が並べられている。驚いたことに、これ等を用いて警官が体を鍛えているのかと思いきや、囚人がトレーニングしているとのことである。そしてマーシャルアーツを囚人共は、牢獄でトレーニングしていると言うことである。警官のピストルをいかにしてとるか、警官をいかにしてぶったおすか、驚き桃の木でありました。トレーニング場の壁には、美人とブタのポスターがはられていた。





▲彼等のピストルの弾丸は強力なものである

**ジョー**「アメリカでは、警察官のことをブタと言います」

**初足**「ホワイ!!」

**ジョー**「囚人達は、ブタ箱で一生懸命体を鍛えています。警官は、その間、シュガー入りのコーヒーを飲んでいます。警官、体を鍛えない。肥っています。ブタですね。警官はピストルを持っています。ピストルがあるから体を鍛えません」

物質文明の弱さをこゝに見たのである。併し一方では、警察官共はこんなことを囁いています。とジョー君が話してくれた。

「警察官はガンにたよりすぎています。ですから、

▶アメリカ警官がもう一つのピストルを隠しもっていると言う、隠しピストル。

ガンのないときは一つの不安と恐怖は常にもっています。それでシュットの練習はよくします。射撃練習の単位は六発入れのガンで、七十五秒間に十八発射てるようにします。三回の弾入れ交えタイムを入れてです。色々の構えから射ちます。両手で射ったり、左右の手で射ったりします。三年位で上手くなります！」

やはり、ピストルの射撃訓練も石の上にも三年と言うことになるんですね。SWATと言う、スワットチームの射撃練習もたいしたものですよ!!と言っていた。

彼等はもう一つの、小さなピストル二発弾の入ったものを所持していた。隠しピストルと言うことになるのであろう。物が、ガンがないと何も出来ない彼等の意識が、小さなパス入れみたいなものに隠し入れたピストルを持たせる。物質文明の護身の知恵なのであろう。

**初見**「よしきた、ジョー君。弾のないピストル術を伝授しよう」

と言うことになったのである。

体術から生まれるピストル術彼等はマーバラス、ワ





▶皮のケースには弾が発補助されており、引き金の部分に穴が空けられており、ピストルをケースから取り出すことなく射てるしくみになっている。

ンダフル、と連発であった。「ジョー君、この技を会得したんだからね　弾六発入れのピストルも、七発いや、六発プラスアルハーと言うことになるんだよ。頑張って、勇気をもって、アメリカ市民の治安を守って上げなさい!!」

と言った所、彼等は私の帰りがけ涙を浮かべて、固く握手して、グッバイ、サンキュー、と別れを惜しんでくれたのである。私は彼等の為にも、帰国したらかならずピストルファイティングの本は、かならず出版しようと決意したのである。そして又、何故アメリカではマーシャルアーツが底辺に蠢めく癌なのか発見することが出来たのである。そして、ピストルは弾がなくても有効な武器になると言うことを彼等にたゝき込み、勇気を与えることが出来たのである。

①Yは両手にてIのPをつかみとらんとする。IはPBC部を左手にて握り、Yの右手外側よりPを横にして、本逆型の如くYを捕り、PAをYに向け極める。





②又は、Iの右肘をY左手上より、Yの頭打ちに入身に出て極め、

③I体引けば、P射講となり残心。

①Ｙ後方より、両手にてＩＰＤを捕り引きとらんとする。ＩはＹ右前腕を押さえるごとく、右前腕背部にて捕る、そこを中心として、

②ＩはＹの右側に一転体変して、Ｙの右腕首を右手に捕り左手は、Ｙ右腕の肘下より突き込みながら、

③Ｙ右腕逆にとり、腕折りに出る。ＹＰをはなす。Ｉ左足Ｙの両足前に出し、Ｙ両足足止め、





④Ｉ左足Ｙの前に入身。体にてＹの右腕逆極め、Ｙ体前のめり、ＩＰを捕り、

⑤Ｙ右肘逆を、Ｉ右肘又は前腕にて押え捕りにする。即ち、Ｙ右腕はＩの右大腿部にて、押えられている事になる。ＰＡＹの右霞当て極む。

①Y後方よりPAをつけ、ホールドアップ

②IはPAを避けると言うより、むしろ背体にて押すごとく、背向にて右後方にすべり、体変のこと。抜けるごとく体変することである。この骨できまるから心して下さい。

③I体はたえずY右腕を殺している。I体変、右拳前腕肘一体となり、その朝霞と右弱筋打ち上げ、

④Iは左手にて、PBCをYの頭部越しに捕り、Yの左顔面急所打ち締め砕き倒す。

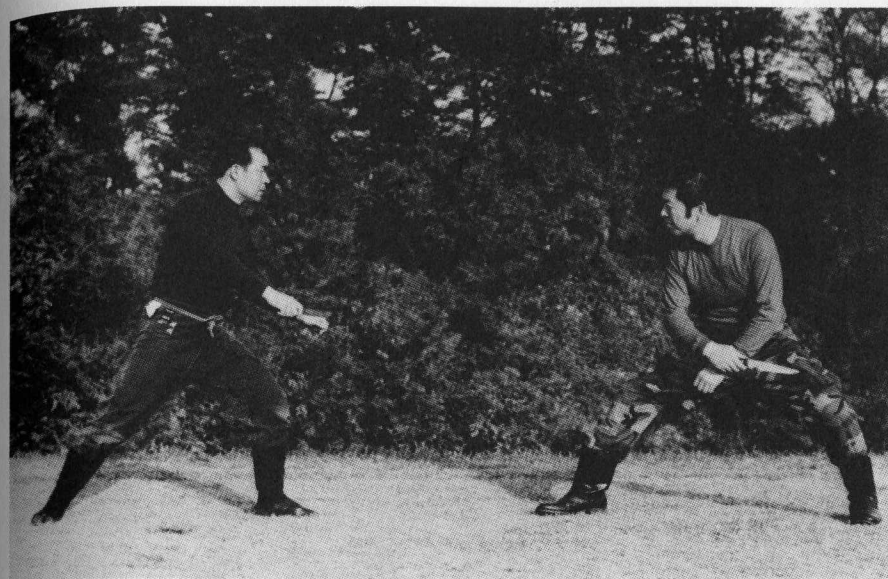




## Nの投げと突きの要点

▲ナイフ投げの型である。Iは右脇に上肢を振るのごとく振る気持で、前方の目標に向かってNを自然にはなす。

▲武器は魔物である。武器と云うものは非常に危険です、絶対に人に向かって投げてはいけません。投げ突き三心一如と云う動きを、よくよく味わって訓練することです。

◀ＮＢＣＦを右手に握り、右上よりＮのＡＢＦＣの重さの貫性で目的に当てる。直打、廻転倒、いづれも現象としておこりますが、訓練の上Ｎの特徴を判断、その骨法で目的に打つ。


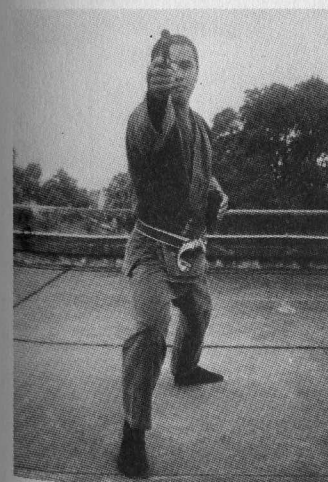
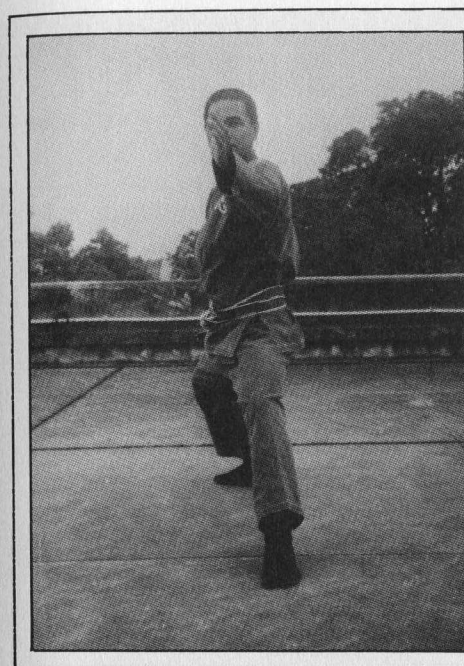
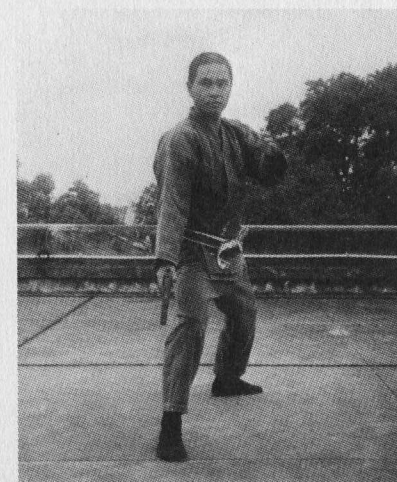



①Ｎを、Ｉの左脇よりＹに向かって投げの骨法。

②体変と同じゅうして、Ｎを自然に目的に向かってはなす骨法。

## 三心射ち

…前方より見た写真

①ナイフ投げも射撃も同じようなものである。一文字に構えて、

②右足前進と共に、右手振子の如く目的に体と共に慣性にて振りながら、

③体構えに射撃をする。





## 三心射ち

…側方より見た写真

①一文字の構え。

②右足前進、右手振りに出て、

③目標射撃、止まるなきこと。第一の骨法。

## 三▼三心斜め射ち

①一文字の構えより、

②右手一寸開き、右手振りにて、

③針め射ち。

④②より、体変による正面射ち。いづれも四天八光のこと。





## 上より下へ手裏剣投げ

①怒虎の構えよりＰ振り下しながら、

②左膝屈曲しながら、右Ｐ目標に振り下し、射ち込む。

③この際、左手も下げながら体のリズムをとる。

④又はＰの振り下ろしと平衡して、右足前進に極める。

## 三▼銛盤射ち型——…前方より見た写真

①左フトコロにPをひそませる。不動半立坐型。

②右手にてPを抜き出しながら、

③右手首の振り当て銛盤投げの骨法にて、

④目標に当てる。





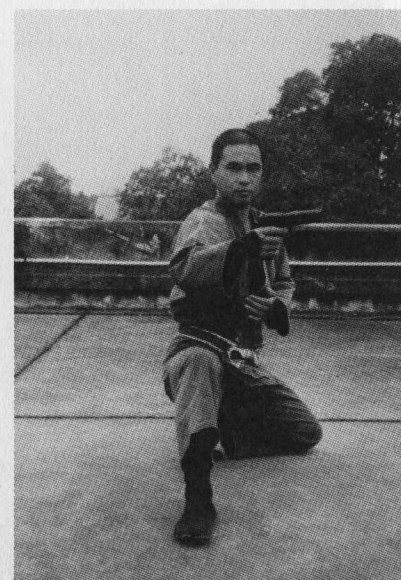
## 三▼銛盤射ち型——…側方より見た写真

①

②

③

④

Pと云うものは、ひも鎖をつければ鎖分銅に変化し、投げれば手裏剣、ピストルの体で攻撃すれば、隠し武器と変化するものである。

## ≡▼四方射ち型

▲後方射ち。

▲前方射ち。

▶側方射ち。

▶隠し射ち。左腕下よりPを隠しながら射つ。





## ≡▼抜き打ち型四方射ち

▶前記同じゅうするも、側方よりの写真により、体構えの変化をよくよく学び、その骨法を会得すること。

▶前方射ちの骨法。

▶側方射ちの骨法

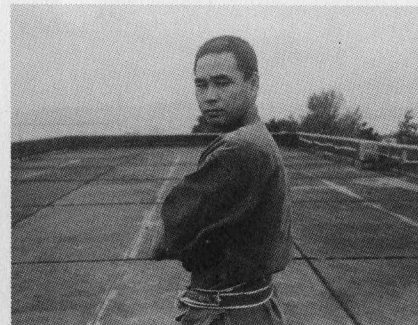
▶後方射ちの骨法。

# 体型術型

ナイフでもガンでもそうです。体の変化と共に、自由に攻防出来るアクションが要求されます。それには、GAを支点として自由に自分の体をコントロールする訓練をする必要があります。

▲側転

▲右側方回転射ち

▲回転





①Gを右後方より、手裏剣投げの要領で投げ射ち。

②右足流し、横流れ射ち。

③右足前に流し、立流れ射ち

④②又は③より体変、返し射ち。

◀捌き横歩き射ち。横飛びも必要です。

◀潜り打ち。横流れ、側転、反転と変化。

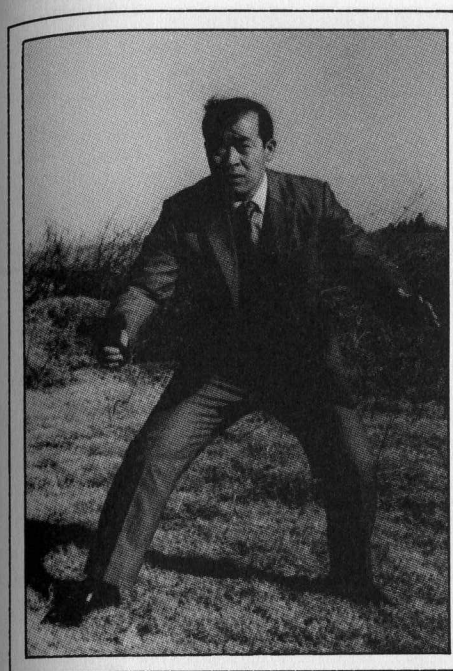
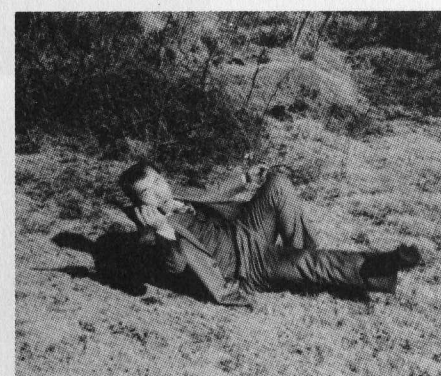
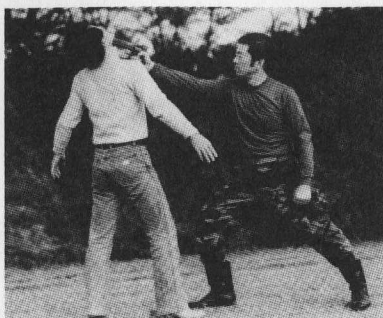
▲流し射ち。反転、横歩き立ち。

▲反転射ち。横流れ、立流れ、後転と変化。





## ピストルの打ち型その変化

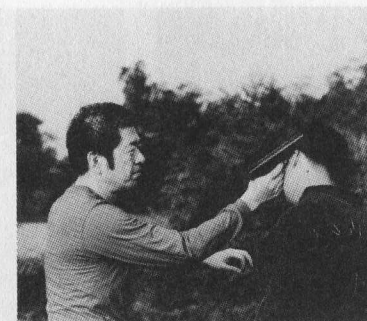
①Ｐの全体を一つの体器として扱えば、いろいろな技が生まれるものである。先づＰの体術を発見して下さい。

②Ａにて振り上げ突き、又は直突。㊕Ｙの右突き拳を、ＰＡにてバントの要領でアタックしても効果が大となる。

③Ｉの左手にてＢＣを握り、Ｐ体器にて色々な攻撃防禦の具とすること。

④例えば、ＰＥにて打ち込む。又は押さえる。

⑤ＰＤを左手にて支え、ＰＡにて突き込み。跳ね上げ、払い落とし、左右払いと、ＰＢＣをフルに使う骨法を会得する事。

# ピストル捌き型

▲ＰＢＣを左手にて握り、ＰＥにてＹの歯止打ち。

▲ＰＣにて、Ｙの左霞打ち。

▲ＰＢをＩは左手添えて振り落としながら、Ｙの時の当打ちの骨法。

▲亦は朝霞打ち上げ。

▶ＰＣにて、Ｙの左龍門打ち下げる。



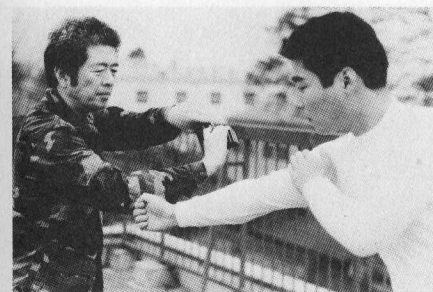


①Ｙ右拳突き来る。Ｉは右に拳をながし、ＰＢにてＹ弱筋打ち。

②ＩＰＢＣを左手にて握り、ＰＥにててとＹ仏滅打ち。

③Ｙ正面向きにかえり、包囲の構え。ＩＰ右手前方に出す。

④Ｙ右拳突き来る。ＩはＰＡをそのまま出すことにより、Ｙ人中当て倒す。

①Ｙ右突きに来る。Ｉは
Ｐを返しながら体変。
左手にてＰＢＣを、Ｃ
を上にして握ることに
なる。

②Ｉは左手はなす反動に
て、Ｙの右流れをＩＰ
Ｃにて打ち落とす。

③Ｉ入身しながら、ＰＢ
又はＰＦにて人中当て
込み。

④ＩはＰＥにて、Ｙの左
雨戸当てに行き、Ｉ左
手にて右雨戸を当て、
両雨戸当て締めて変化。
ＩはＹ締め手はなす。





①再びＹ右突きに来る。Ｉは体変
しながら、Ｙの右腕上りなえし
突きに、ＰＡにてＹの左弱筋当
て。

②ＩはＰＢを、Ｙの左手一人より
Ｙ左腕越しに、ＰＢＣをＩ左手
にて捕り、Ｙの左上腕を締める。

③Ｙの左手はなつ。再び右突き来
るを、ＩはＰＣにてＹの右雨戸
当て倒す。

①Ｙ右突き。Ｉは体変。ＰＤにて体引きに、Ｙの弱筋内方より引き打ちに出て、

②そのままＩはＹの後頭部にＰＥをかけて、Ｙ右大逆と共にとり、

③Ｙの右当りの急所押し打ち、ＩＰＥにて伏向けに倒す。





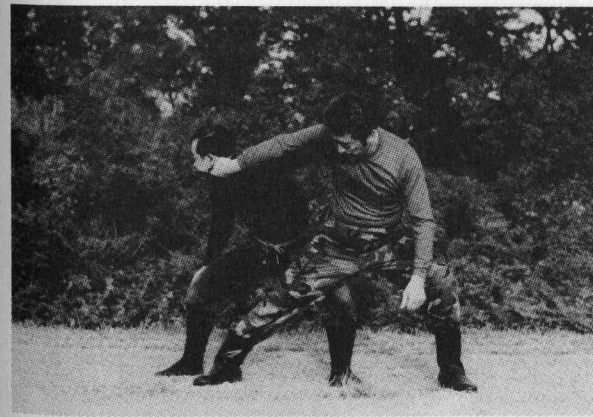
①Ｙ右突き。ＩはＰＡＢを下より振り上げるように、Ｙ右手を打ち上げ、即ちＰＢＡとは、Ｐの先端角と云うことである。

②ＩはＹの右手を小手逆表逆捕り型として、しっかりと捕る。

③Ｙの右肘関節内側を、Ｉは右ＰＥにて押し打ちに倒す。Ｙは仰向けに倒れる。Ｉすかさず右膝にて、Ｙ右前腕部急所を踏み当にて捕る。

①Y右突き来るを、Iは右PAにてYの左脇きに当てる。Yはたまらず不動。

②Iは入り込んで、Yの右手逆巌石型にとり、Y反撃せんとするを、

③IはPを返すこと。体と同時変化すれば、PCがその顔面に当たる。


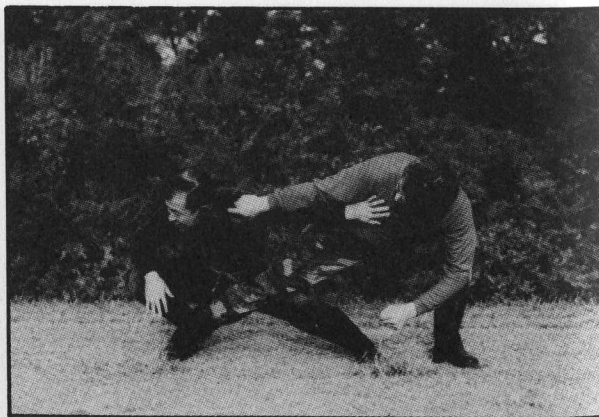



④そのまま体を右に変化する。この際、Iの右臀部又は大腿にて、Yの左大腿に当て押し捕りにいく。

⑤Yたまらず右手を地上にささえるを、Iは体の調子にY体を泳がす。Y体変にて逃がれんとす。

⑥Iは体を左に抜きながら、反動にてPAにてYの左霞打ち倒す。この技もポイントには、押え極めると云うのでなく、空間でYを困らせると云う骨法を会得すること。

①Y右突き。I体変、PにてY右拳打ち当て、又は落さんとす。Y体変。

②Y再度右拳突き来る。IはPBCの側面Fにて、右に払い押さえの程にて、

④IP右前に廻し誘動。円形にYの右膝内側にもって行き、押えつける。

⑤Y右拳引き逃がれんと体変するを、Iはすかさず連撃に出る。

⑥即ちIは入身、又はそのままの体動により、Yの左霞をPBにて当て、I左拳はY右流れ打ちにしながら、Yの右前腕をYの左膝、又は大腿にて押さえつけることになる。Y転倒に行くかIの自由変化にあり。

①Ｙ右足にて押し蹴りに来る。Ｉは体変、ＩＰＥにて又はＰどこでも。亦ＰでなくＩ右前腕にＹ右足のせるように抱えどりにてもよし。ようするに、Ｙ右足蹴りに対し、体変しながら捕ると云うことである。

②ＩはＹの右足を抱え捕りに極まった所で、ＩはＰＢＣを左手にて捕り、ＣＥにてＹの右肚骨折りに締める。

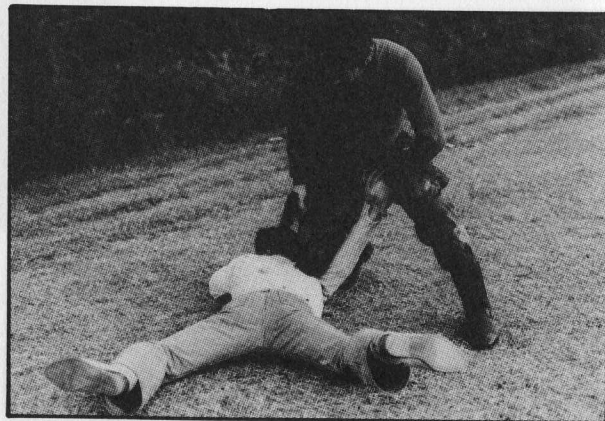




①ＹはＩの右手首を捕り、左足蹴りこまんとする。

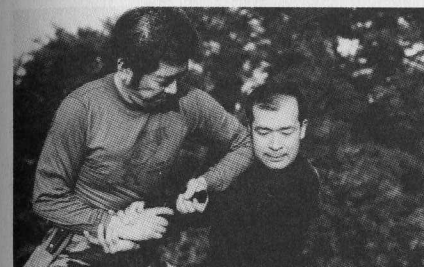
②Ｉの右手は、Ｙの右手上より裏逆におもいきって廻し、Ｉの左手Ｙの右手下よりＰＣＢをつかみ、

③Ｉは捕り手を下におして引いて、Ｙを泳がせすわらせる。

④Ｙはたまらず腰落としギブアップ。

⑤Ｙ体を前に引き倒し、Ｉは左手にてＩの右手を大逆にとりながら、ＩＰＡを頭部につけて極める。

①ＹはＩの右手を、両手にてガッチリと捕り押さえる。

②Ｉは肘を曲げながら体変。即ちＩＰをＹの右手外に出ることになる。次に、Ｉ右肘にて体の変化によりＹを惑わす。

③必然的にＹの右手逆型になって行く。

④ＩはＹの左手上よりＰＢＣを握り、その左前腕締めに行く。虚Ｙ動けば、Ｉの左肘にてＹの歯止めに行く。

⑤Ｙの両腕締めに出る。勿論Ｉの左膝はＹの右膝を捕っている。Ｉは自由変化にＹを捕る事が出来る。





①前と同じく、Ｙは右手前にしてＩ右手を捕りに来るを、Ｉは体を落とす調子振りにより、右手をＹ右手外より上に廻し捕り。

②ＩＰＢＣをＹの左手肘外より廻込み、ＩはＹの左手下よりＩＰＢＣを捕り。

③はＹの両腕溺めにとりに締めながら体変。Ｙ自然に転倒、腕折りの事。と同時Ｙの左下腿も極まることとなる。

①Ｙは Ｉ の右腕をＹ左手にてはね上げ、受けに出ながら、右手にて裏鬼砕型にかけ、Ｐを捕らんとする。

②Ｉ はＹの裏鬼砕がけに対し、体変にて抜く。

③実をみて虚に入り、Ｉ は立つことあたわざれば、Ｙの攻撃に対し体変、潜型横流れを利すこともある。

④一方、Ｉ の左拳Ｙの右霧霞を打ち込みの変化にてもよし。



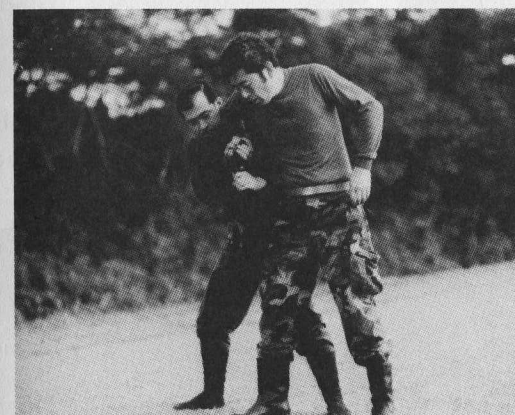
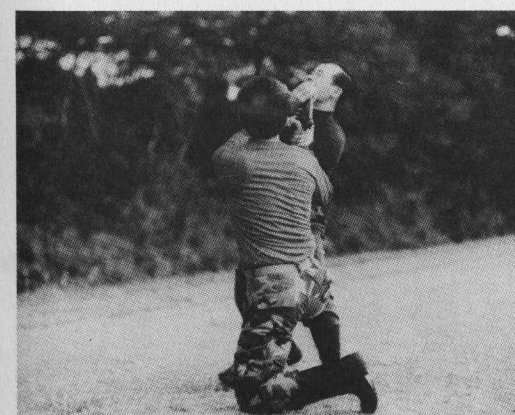


⑤Ｉ 右足廻し引き体変。左肘にてＹの右肩当て右手抱え型に、Ｙの右腕逆に捕り。

⑥体にて極めながら、Ｙの右止前にＩ の左足はＹの右足前より入り込り、次の変化待ち。

⑦Ｙ変化すれば、Ｉ はＹの右足折りに体落とし極めて行く。右手右足Ｙは逆折りと共に、Ｙの右足折りにもなっている。上腕下腿の二方向同時虚実捕りの事。

①Yに右脇よりIPをとられんとす。YはIの右手を左手にてIの上腕を抱え、その右手にてIP手首を捕り、Pをとらんとす。

②YはIPのBCを左手で捕り行き、手のもちかえとなる。

③Iは体変、潜型に行きながら、Yの右手下より捕りながら、





④IPAをYの左雨戸に極める。

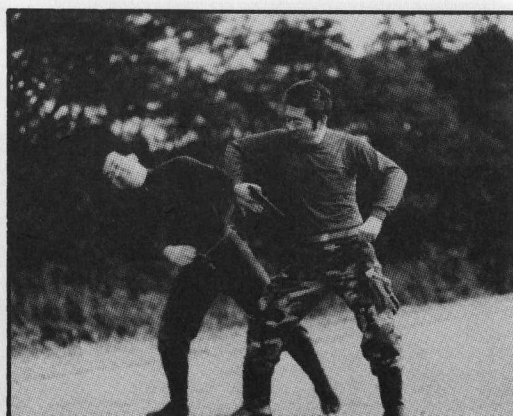
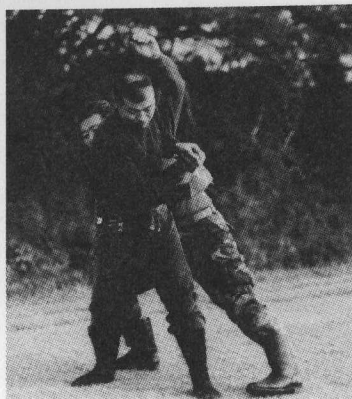
⑤又はYが同じくIPを抱え捕りに来るを、相手の気に上じて右肘にてその左歯止め。

⑥打ちとばす。亦IはYの左強経時を踏むことによって、Yの攻撃を避ける事が出来る。

**この技は、YにPを捕らして捕ると云う捨身技の一種である。**

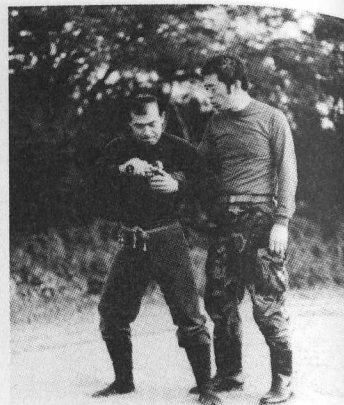
⑦前に続く。YはIPのBCを、上より握りIの手よりPをとる。

⑧IはPの口引き金の方より、左手にてPをとりながら、Iの右肘にて下よりYの左顎をはね上げ、

⑨I左手にてPをとり、右手拳にてYの朝霞跳ね上げ、打ち倒す。





①YはIの右腕を左手にて抱え捕り、右手にてIPBCを上より捕る。

②IはYの左より右に体を抜け、

③Iは左手にてYの左七抜打ち込み。I左肘に締め打ち、一方I右肘にてもY左脇攻撃に出る。

④IはYを後方捕りて、Yの体を仰向けに倒すか、首よりYを俵投げに後方へ落とす。

⑤IはYの体を後方に流がし、仰向けに倒れるを、I左様にてY右脇当て、又は押え極め、残心。

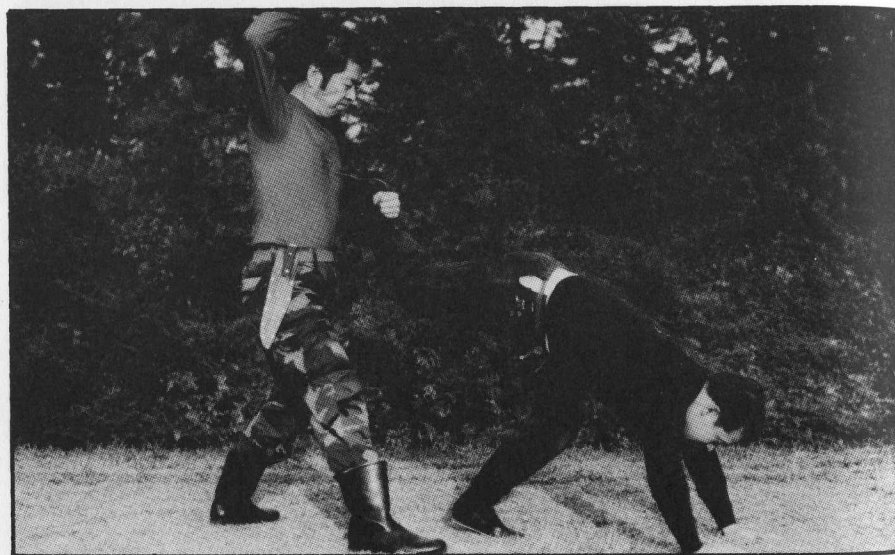
①Yは右足にて蹴り込み来る。I左に体変、右手にて払いかわす。

②I体変。右手にてYの右足抱えるようにして、PEにてY股骨内側を抱え打ち、

③Yたまらず一転逃げんとするを、I左手にてYの右足捕り、





④Iは入身。Yの七抜をPEにて打ち込みながら、

⑤I体を立てなおす。PCにてYの右抱を打ち落とし極める。又はI右足にてY鈴を蹴り止める。又はY右足内側より払い蹴りに極む。

I右手P前方に構える。Yは左手にてIPを払いつかみながら引き込み、右手Iの右手下より入れて背負い投げにくる。

①Iは背負投げにさからわず、左手だらり背負いにかかりつつ、

②Iは前転しながら前に返り、Yの左手をIの左手にて捕り、体変しにYを倒し、

③Iは左手にてYの首にかけ、右手PEはYの胸骨に当て、

相手と組んだ、又は捕られた時、投げられた時、うたれた時、驚かすIPにて、Y急所に反射的に当て込めば、Yの戦闘力は奪うことが出来るのである。敵に投げられながら、避ける勝つ方法を会得してもらいたい。

⑤P、E当てに押し込む。

⑥Iは変化してIPBCを捕り、首締めに行く。

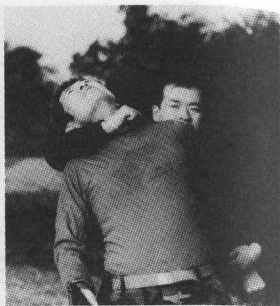
①Yは両腕にて綾に首締めにくる。IはPAにて、Yの左脇密星に打ち込む。

②Y痛みの為のがれんとするのを、Iは、左手にて頭を捕り、右手にてYの左腕大逆に捕りつつ、PAにてYの血ダメ当てのこと。





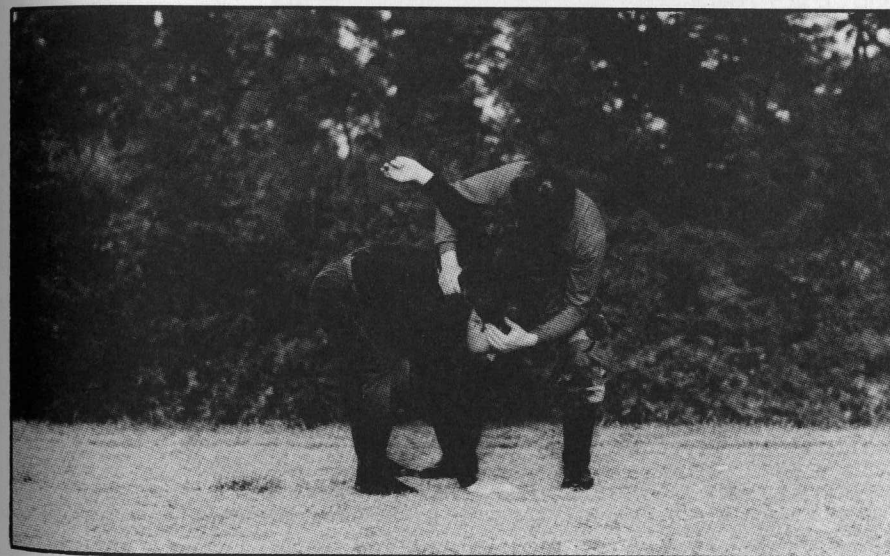
①YはIの首を左手にて片手締めに行くと同時、左手にてIの左手も捕る。

②IはPEにてYの右手甲を押し極めながら、YにIPAを向ける。

③Iは体を右に体変しながら、IPCをYの右手内側にかけ引き込む。

④Yの体は右手竹折りになる為、左手をはなす。この際、Iの左手拳にてYの左弱筋払滅。金的声催。何にてもより打ち込む。

⑤IはPCにてYの右手捕りのまま、左膝つきながら体落し。I左手はYの首を捕えて、

⑥I体を変化させることにより、

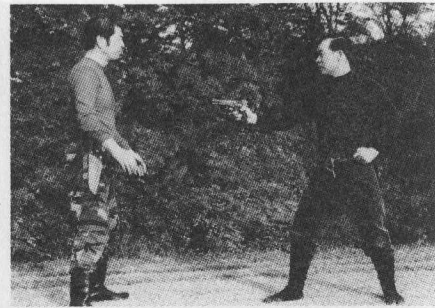
⑦前方に首投げに極めながら、IPAにて当て込み。同時のこと。

①ＩはＰにて捕える。Ｙは隙を見て、右蹴りにＩＰを飛ばさんとす。事実、ＹはＩのＰを完全に蹴り飛ばしたものと思った。

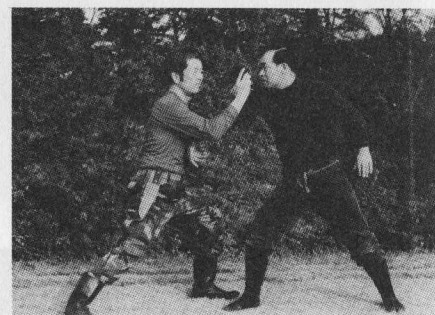
②瞬間、Ｉは右第二指を曲げるだけで、Ｐの引き金所にひっかかりくるくると廻り、ＰはＩの手より飛び離れることがない。

③Ｉは左足一歩後退しながら、左手Ｐにそえて射撃の構え。残心。



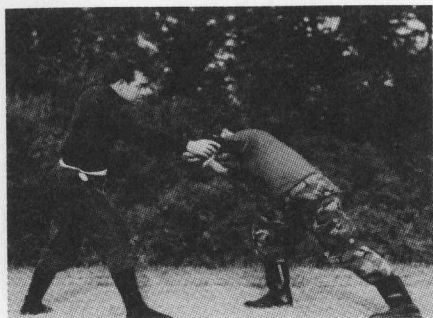


①ＹＰに捕える。Ｉは左足入身による体変術をマスターすることによって、この技は可能なのである。

②Ｉは左足入身体変。拳流しの如くして、左手にてＹＰＤをＩ体前面即ち右脇の支えと送るように変化して、

③ＩはＹＰＣを下より逆に捕り、Ｉは左手にＹの右手竹折り型に捕る。

④Ｙより捕ったＩＰＥにて、Ｙの面部を当て倒す。

①引き続き。前記の入身体変の拳流しの妙術を会得しないと可能としない術である。よくよくこの体変の骨法を会得して下さい。

②Ｉ右足右斜め前に入身。Ｉの右手はＹＰＤより引っかけ捕りに流すのですが、この際大事なポイントは、ＹＰＡを流し去ると云う心意気である。

③Ｉは左手にてＹＰを抱えはさみ、Ｉの右前腕はＹの右腕逆捕り地獄極め。楽捕りに変化するのである。ようするにＹの右腕逆捕りのまま、Ｉの体の向きを変えることにより、Ｙを逆落としに極めると云うことである。





①ＹＰＩに向ける。Ｉホールドアップ。

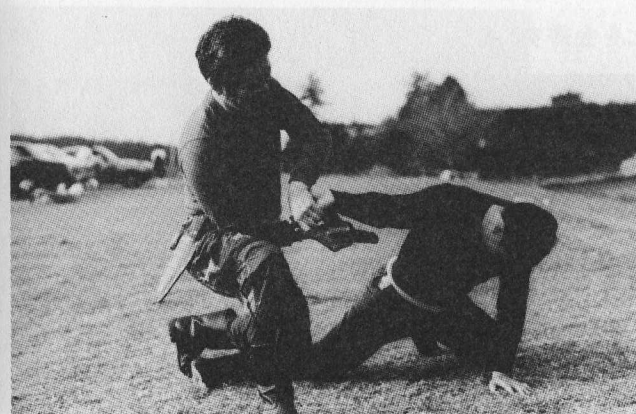
②ＹＰＡ弾道を左肩外にはづし避けること。第Ｉの斜行しのぎ体変、自然のこと。体動あるも無気自然の変化を会得すべし。

④Ｙの右手ＹＰＡ下向けとしながら、Ｉの前方より左に運平し、Ｙの右小手表逆捕りに行き。

③ＩはＹの前腕を左手にとりながら、右拳Ｙ急所折ち。すみやかに一内同調。

⑤ＩはＹの右手を表逆に高く上げる、Ｉは体落としながら、調子でＹ体を崩すこと。

⑥Ｙは力により返さんとするを、Ｉは表逆のまま竹折り、ＹＰＡをＹの咽喉に当てる。

⑦I変化。表逆より左肘前腕にてY右前腕を捕り、

⑧Iの左膝拳はYの右膝を捕る。Yの前腕も表逆竹折り型に締め行き、その右脇にYPAを向ける。

⑨Yは右足折りに、たまらずYPをはなす。IYPを捕り、残心。





①YPは突き出す捕えに来る。Iは体変、左前腕にてYPを払いに出る。

②I体変同調、YP跳ね上げの機先となる。この際どの技でもそうですが、PAを我が体よりはずす手を心掛けることが第一である。

③IはYPBCをとり、YPAをYに向ける。

④YPをIは右手捕りのまま、YPAを体にて押し、Yの右脇打ち込み。同時I右拳Pよりすべり拳として、Y右仏滅打ち込んでもよし。

⑤或いはYの声等どこにてもよし。P又は拳にて当てること。Yの右手は片手にて、Iの左手にて逆鬼砕型に極まる。変化に極めるもよし。

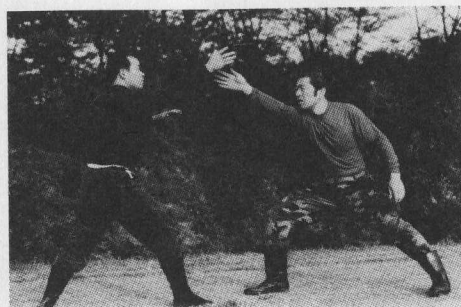
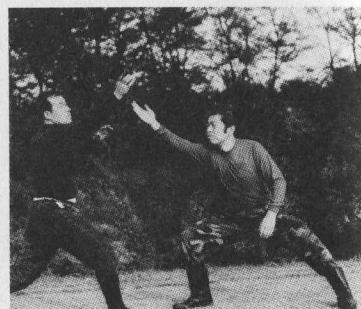
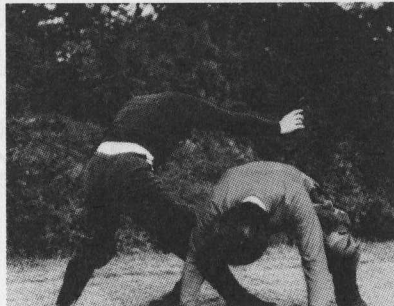
①この技は、YPAを避けながら潜り型に体変し、

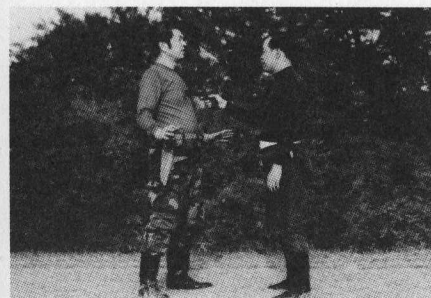
②Iは右拳にてYの右手下より打ち上げる。

③Yたまらず P を飛ばす。これもPに対する捌き潜り型。一如の訓練の要がある技である。





①YのPの構えを、Iは右手掌にて払い打ち上げる。

②先づ何度も云いますが、体変の際YPAを避ける為に、YPAをI体の面積外にはずす払い方も、その様な心情が大事です。大きく強く払い上げる必要はないのです。YPAの射点をはずす。その心技体一転の変化を練磨すべし。

③IはYの右足に体をのせるようにして左前方に倒れる。

④Yたまらず転倒。同時にIの右膝拳Yの右足折りに極まるのである。

YPA、I腕につける。この際Iは両手をあまり高く構えないこと。

②Iは体を落としながら、左手掌にてYの右手下より打ち上げる。勿論YPAの射点をはずす事が第一である。

③YPA上に向く。Iは右手拳にてY左仏滅すくい打ち。I左手にてYPを捕る。

④IP左手より右手に構え、残心。





①YP。Iの背後より射ち構え。

②IはYPAを恐れず、YPAによりかかるようにして体を左後方にすべり変化。YPAはすれすれに、Iの体から射点ずれてある。

③Iは体変。体を落としながら、右手にてYの右肘下より抱え上げ、左手にてYの前腕を捕り、

④Yを逆投げに行く。この際、Y立ちなおらんとすれば、Iの鬼角拳にて、Yに当て入る。Yの右腕逆捕りと変化。後転、I右足蹴り等がある。

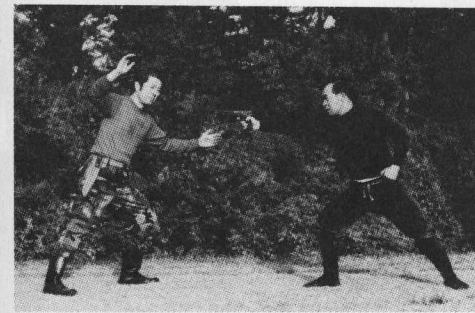
⑤Iの投げ技、Yにきまれば、

⑥投げ倒れたYの右肘を、Iの右肘、又は前腕部にて体と共に押すことにより、Yの右肘逆に捕られて行く。

⑦IはYの右肘逆折りに極め、残心。

①YIより一寸はなれて、Pにて構える。

②Iホールドアップ。併し古伝ではこの構えは包囲の構えなのである。

③Iは体のゆれによりYPAを避ける。

④同時、右足にてYPを蹴り飛ばす。飛鳥打ちの事。





①この技は体にてYPを捕る技である。勿論YPAをさけながら、体転することが必要である。

②Iは右斜前方に向って体転して、Yの急所を当てYPを飛ばす秘技である。この一瞬YはIの体が消えたと思った。

③I体転。Yの右腕に自然蹴りが入っている。亦はYの左足砕きとなる。

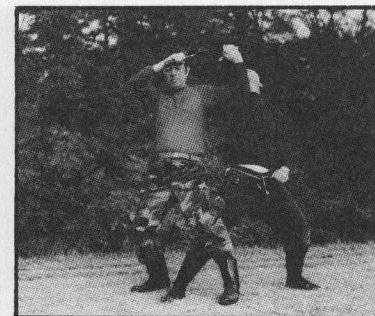
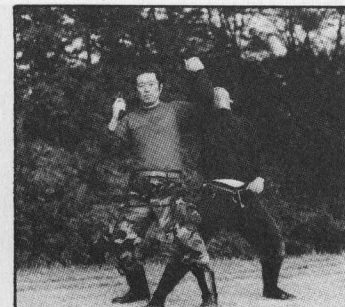
④Yたまらず極まる。この技は非常に危険です。お互に力を入れることなく、ゆっくり練習すること。

①Ｙ後方より、Ｐにて捕え来る。

②ＩはＹＰＡを体すべりにて、右後方に抜け行く。

③Ｉは左手にてＹＰを抱え捕りに行き、この際、Ｉ左肘拳にてＹ水月当たることもある。

④ＩＰを捕りしまま左肘上に上げる。Ｙ朝霞打ちとなる。

⑤ＩはＹＰを右手にて捕り、Ｙ右龍門を左肘拳にて打つ。

⑥又は、変化によっては左肘拳Ｙ右雨戸当て、

⑦Ｙ右脇にＩＰＡを当て極め、後ろ倒し。





①前に同じ。今度はＹＰＡをＩの右脇にやりすごす。必算。「ピストルから弾が出ないと云う真念を持つ事」

②ＹＰＡをＩの体右腕間に体変でながし、狭み捕り、Ｙ右手体共に引かんとす。その機を利して、

③Ｉ体変。左肘拳にてＹ仏滅当て込み、ＹＰをＩの背中でそえ捕りの心意気に気で捕っている。

④ＹＰＡ四論を体よりはずしながら、Ｉの左肩首にてＹの右前腕狭み支えとし、Ｉの左腕Ｙの右腕逆捕りに締める。Ｉは左足にて、Ｙ右膝下捕り、上下捕り。

⑤Ｉ上下極めにて行く。Ｙ腕折りとＹの右大腿折りに出つつ、Ｉの右拳攻撃も加わる。三急所一にして攻撃。

⑥三所一撃。ＹたまらずＹＰ落とす。残心。

①IのPに弾丸なし。Y二人Nにて来る。Iは無情位取りの事。Y①は黒の服、Y②は白の上衣。

②Y①N右突きに来る。IはPにてY小手打ちNを打ち落とす。

③IはYの右手左手にて捕る。体変、Yの右手を頭越しに行きながら、

④逆捕り。Iの左脇にYの右手狭み捕り。Y②Nにて突き来る。I半座体変。YN右突きを、IPCにて叩き落とす。

⑤Y①の右腕、I左腕にて抱えどりのまま、Y②の右手I左手にて捕り、IPCAにてY右手星を打ち込みながら、

⑥Y①Y②を体の振りにより同時に極め倒す。





①Y①I②の後方脇下より両手にて抱え捕りに来、締め来る。Y②右突きに来る、

②Iは右足を後屈しながら、Y②突きをかわす。案山子一本足振りの体勢の骨法を会得すべし。

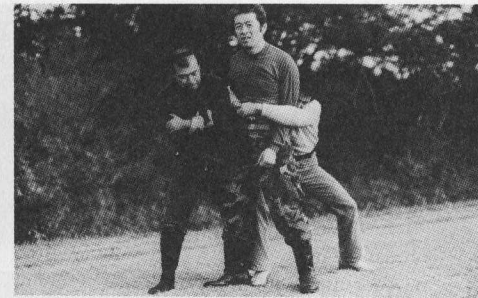
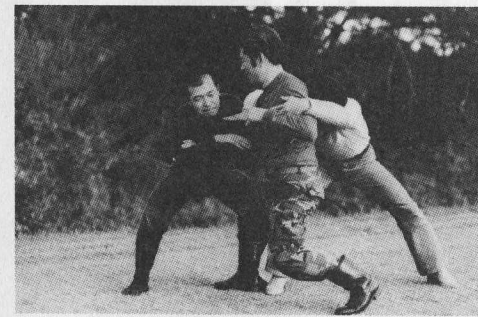
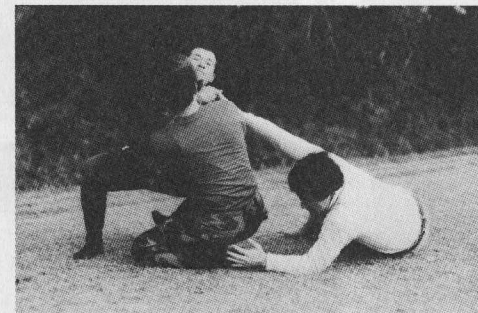
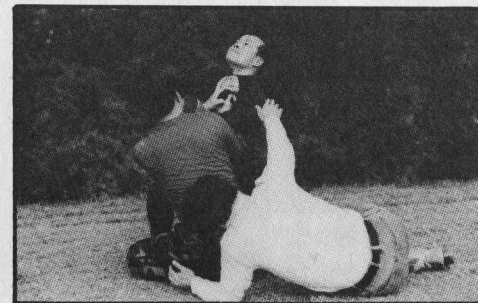
③Y②拳用度来るさ、前動作の如くI左足伸し、Y②の右踏み足をI左足にて捕れる所に隠し足に位置する。

④Y②頭に登りしままの攻撃。Iは体ゆれの虚に乗じてYの右足引き込み、Yの右膝後ろより釣捕り、に行き、引き押しに変化。Y②の右足捕り同じくYの右手を抱え捕りにしめつつ、Yの手足二ヶ所捕り。

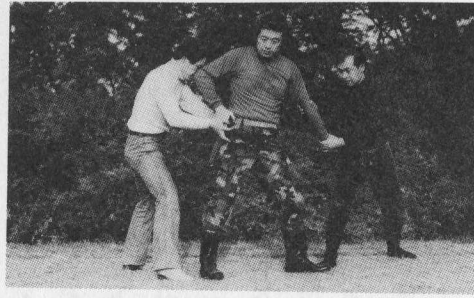
⑤Y①の両腕も捕る。Iは体にてY②も同時しめながら、これはY②の逃げ引きを利用の事。でY①Y②二人捕りになっている。

⑥IはY①Y②の手をIPにて押し砕き。即ちY①の左手Y②の右手である。

⑦Iは立ち上がり体変。二人捕りに極め倒す。蹴り込み、残心。

①Y①Iの右手Pを抱え捕り。Y②はIの両上腕を、後方よりカンヌキ締めに捕り来る。

②Iは体の力を抜きながら、右に自然に体落しながら廻ることにより、Y①Y②共に転倒しそうになる。この際、IはY①Y②の強経、又は時を当てることが可能である。

③体旋IPAをY①の朝霞に向けつつ当て込む。振り当てながら体を沈まして行く。龍巻き型と云う。

④Iは龍巻体変型により、Iの右肘左PにてY①Y②の急所を振り当てに極め、Iの体前転後転にて、再度Y①Y②体に当て砕くのである。





①Y②IPDEを捕って、引き抜き捕らんとす。IPを右手にて一寸おさえる。Y①I①左手両手にて捕りに来る。

②①はさからはずY②の隙に乗じて、Y②の朝霞右肘にて打ち上げる。

③IPすばやく引き抜きざま、IPにてY②左霞打ち。Y②おびえる。

④I左に向き返りながら、左手にてY①の左手を引き上げ、逆捕りのごとくして、Iの左肘にてY①の脇当て、体旋一如。IPにてY①の確打ち倒す。

「なす技を己が力と人は云う　神のみちびく身と知らずして」と云う古歌があるのですが、武芸の極地と云うものは、こう云うものなのです。危険を避ける護身術、護心術と云うものは、心身の練磨によって正しく武風一貫して生きると云う日常が神に通じ神技を生むのですね。

　オハイオのマイアミキャンプのセミナーで、私はこんなことをやってしまいました。柳生宗矩が小姓に刀を持たせ、満開の桜を心うつろに眺めていました。その春の後姿を見た小姓が、「わが殿がいかに名人とは云え、この機に刀で斬りつけなば、かわすことが出来まい？」と考えた。とたんに宗矩は殺気を感じて、座敷へと避難したと云うことである。私は宗矩以上のことをやってのけまして。数百名のプロマーシャルアーチストンの見ている前で、その実の体験者、ヘイズ君に、その時の様子を手紙で書き送らせたもの原文のまゝ御紹介しましょう。

　物質的欲望がある程度満たされたアメリカでは、個々の幸福、充足は物質で埋められるものでなく精神的なものの復活を求める風潮が高まっている。アンディアダムズの本に紹介された忍者の持つ神秘的な精神力、九字、十字は多くの人の心をとらえ、生徒の間でこの話題はひっきりなしに持ちあがっていた。日本滞在中、主な修業は体術に費した自分はこの九字と十字の知識に欠けていることを自覚していた。熱心で誠実な生徒からこの精神力に関する質問が出る毎に心が乱れた。自分自身でも一体それが何であるのか確かでなく、答え方に困り果てていた。こうした困惑から自由になろうと密教の研究に足をふみ入れたが、疑問はますます深まるばかりであった。

　先生の滞米中にこのことをきり出すと、先生は忍者の密教の意味をいかに理解するかについて、いくらかのアイデアを与えて下さったが、それは単に言葉で片付けられるものではなかった。九字、十字を理解する鍵は体術の中にあると説明の言葉も理解しがたいものであった。悶々とした闇の中で一条の光が輝いたのは、フェスティバルも終盤に入ったある





午後であった。ディスカッションの途中先生は私に後からいつでもよいからなぐって来いと命令された。驚きと当惑でしばらくためらったが言われた通りにすることにした。先生は背を私に向けられ、誰かの質問に対する解答の途中であった時、私は先生の顔をめがけ、フルスピードの右手パンチを放った。先生は会話を中断することもなく、二・三センチ頭を動かされ、私の放ったパンチは宙にぬけた。先生の行為は非常に早く、しかも自然であったので多くの人が何がおきたのか気付かない様子であった。しかし何人かの生徒と私は目の前で演じられた驚くべきパワーに、一瞬その場だけ時間がとまってしまったような感覚をおぼえていた。後をふり返った先生の『これが九字だよ』という言葉で我に返った自分を見い出していた。その夜は昼間のことが思い出され、先生の行為は自分にとって一体どういう意味なのかをさぐり出そうと一生懸命であった。そういう私の葛藤が先生にはお見通しだったようである。

　翌日、昨日のことをどういう風に生徒が感じたか聞いてほしいという先生の熱心なリクエストで、ディスカッションの中に持ち出した。この時正直いって何故生徒の感想がそれ程先生にとって重要なのかよく理解できなかったが、一応きいてみることにした。多くの意見と感想が出たが、どれも先生の意図された本質とは多少のずれがあるという解答であった。私は生徒からの反応を興味深く聞いていたがある一人が『それは先生が殺気を感じられたからでしょう』とたずね、先生が『ノー殺気じゃないよ』と即座に答えられた時、一瞬、目の前が明るくなるのを感じた。先生が生徒に感想を聞かれた理由は、私に先生の行為の最高の意味での衝撃と『これが九字、だよ』の言葉が何が意味するものなのかを、理解する機会を与えて下さりたかったからだということが突然わかったのである。私に対する個人的レッスンを皆に示すデモンストレーションの中で、カモフラージュして私に示して下さったのである。その興味の中で先生をふり返ると、いつものスマイルが私に向けられていた。先生は私に真実をみせるるために

私をトリックにかけられたのである。このため大きな危険を冒し、賭をして下さった先生に言葉ではいいつくせない感謝の気持ちを表し、私に残して下さった最高のギフトを人生の宝としたいと思います。

スティーブンヘイズ・記

私はつくづく考えるのに、何故この様なことをやったのか、今考えると相かわらず俺は馬鹿だな！と一人笑いが出るのである。兵法の一語に、あるかと思えばなし、なしと思えば有る、美妙なる実とありますが、そんなものです。妙技とは、師がよく言われました体術を修業一貫したところに奇績が生まれるものであると!! 諸氏は現代風にアレンジされたナイフ術ガン術とは言え、根底に流れている者は、千年の歴史を正しく生きぬいて来た生命力があると云うことを知って裁きたい。そして正義の道、誠の道を歩く為の糧としていただきたいものです。「この術悪用すればかならずやれ滅される」と言う律が或神館道場にはあります。故に私は、当道場の士進師（先生）について危険のないよう、安全に、悪用することなく正しく修業されることを、この本を見た諸君に重ねてお願い申し上げます。

「ヘイズ君が、後方よりパンチがを放った。その時先生は二、三糎頭を動かされたと見ておりますが、後頭部の中心から二、三糎右に振っただけでは当たってしまうのです。私はその時膝が七糎体を右に移動させていたのです。合計糎体変しているのです。皆さんに武道の極意とはこのようなもので見ているようで見えない部分が、修業の過程によって表われていると言うことです。何よりも、武風一貫が、最高の極意なのです。私は彼等に申しました。キープ・ゴーイング!!」

昭和五十八年二月四日　立春の日　脱稿

白龍翁





ナイフ術ピストル術の技術程度、その過程を評価するものとして、ナイフ術、ピストル衝の段級位の免許を武神館道場では審査し授与しております。希望者は本部道場に入門して当道場士道師により所定の教程を経て、免許を受けることが出来ます。

武神館道場本部
千葉県野田市野田六三六
電話〇四七一㉒二〇二〇
宗家　初見良昭　号白龍翁